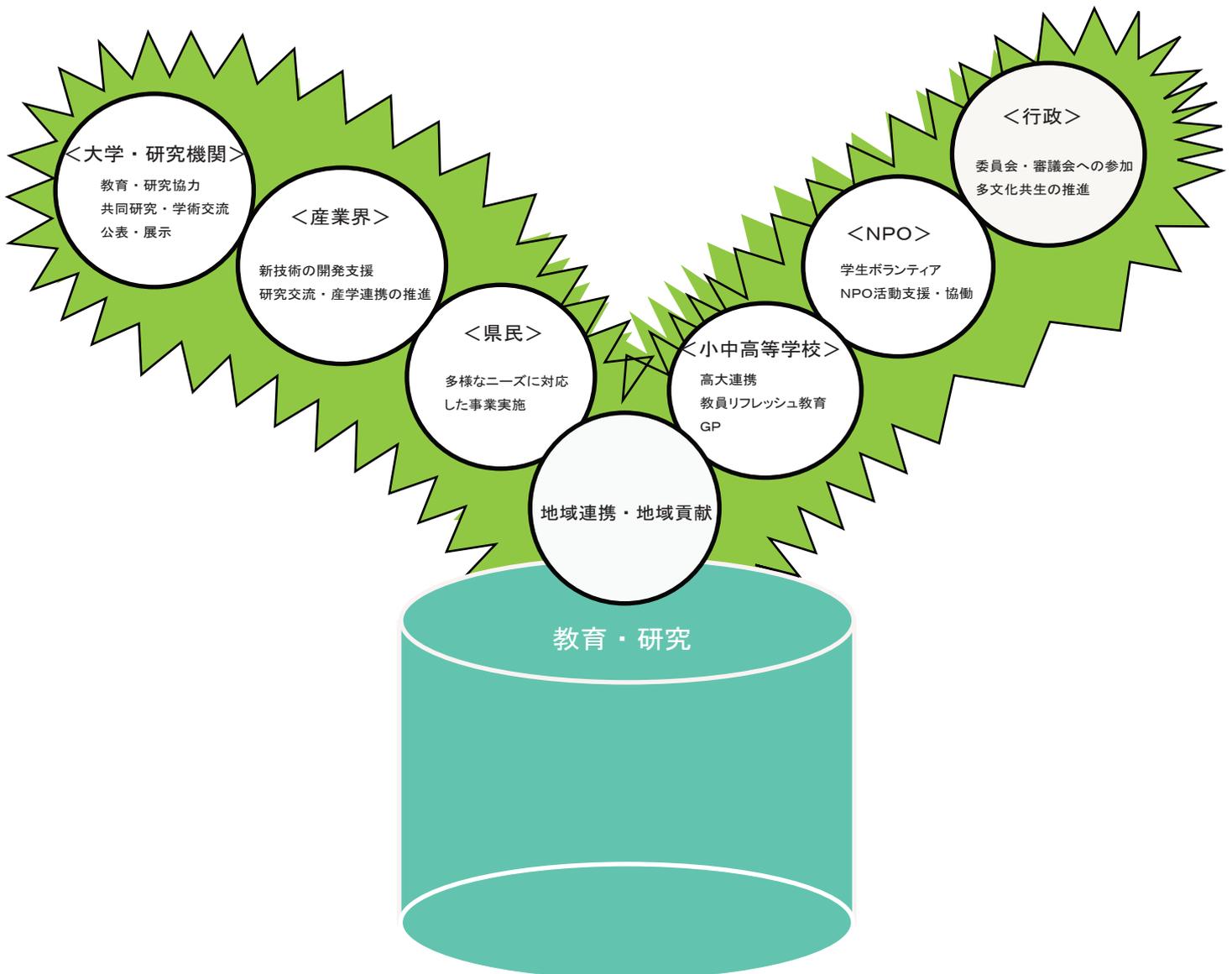


愛知県立大学

地域連携センター一年報

第2号（平成20年度）



はじめに

愛知県立大学に地域連携センターが発足し、2年目を迎えました。

平成20年度には、行政との連携として、愛知県地域振興部と共催で、中部の明日を考える連続講演会（6回）、あいち地域づくり実践講座（3回）、愛知県総合教育センターとの高等学校教諭の能力向上研修などを実施しました。NPOとの連携としては、環境・交通をテーマとしたフォーラムを実施しました。また、昨年度からあいち海上の森センターが本学において実施している「人と自然の共生国際フォーラム」には、地域連携センター活動の一つとして、実行委員として、実施しました。

産学連携推進室の活動としては、情報科学部の地域連携活動のフロンティア21エレクトロニクスショー2008や情報科学部と愛知県産業技術研究所とが連携して実施している情報科学研究交流会などに協力し、中部経済産業局が主催の大学知的財産セミナー（2回）、瀬戸商工会議所とのPC講習会などを実施しました。公開講座は4講座（12回）、学術講演会は2回実施し、公開講座の内容を分かりやすく紹介するためのリーフレット作成や名古屋市大学連携講座に参加するなど、公開講座の充実を図りました。また、地域連携活動を活性化するために、地域連携センター内に設立した3研究会（公共政策研究会、環境共生研究会、文理連携研究会）は、学内の研究所（多文化共生研究所、情報科学共同研究所など）と連携して実施しました。

平成21年4月には、愛知県立大学は、愛知県立看護大学と統合し、新しい大学として再出発します。新大学の魅力を知っていただくために、多彩な行事を企画した新・県大ファンファーレ（10/28-11/5）においては、学術講演会や環境共生研究会などを実施すると共に、発達障害児への教育支援、外国籍児童生徒への教育支援、小学校英語支援のスクールボランティアに関するシンポジウム（1回）を実施しました。

昨年度の長久手町との協定締結に続き、平成20年5月には、瀬戸市教育委員会と学生派遣に関する協定を締結しました。

このような中で、地域連携センター年報第2号を発刊することといたしました。今後も、地域に開かれた大学をめざし、大学の研究成果を県民にわかりやすく提供するとともに、様々な分野での地域連携活動を推進していきます。本年報は、本学の地域連携センターを中心とした地域連携活動の記録です。皆様から忌憚ないご批判、ご鞭撻を頂ければ幸いです。

平成21年3月

地域連携センター長
安川 博

年報目次

はじめに

1	この一年	1
2	組織と運営	5
2. 1	センター運営会議	10
2. 2	連携推進委員会	16
2. 3	公開講座企画運営委員会	19
3	中期目標と年度計画	23
4	連携事業実績	45
4. 1	行政との連携	47
	あいち地域づくり実践講座	47
	中部の明日を考える連続講演会	49
	人と自然の共生国際フォーラム	55
	愛知県総合教育センターとの連携事業	56
4. 2	他大学・研究機関との連携	57
4. 3	産業界との連携	58
	情報科学研究交流会	58
	フロンティア21エレクトロニクスショー2008	60
	瀬戸商工会議所とのパソコン講習会	61
4. 4	小・中・高等学校との連携	62
4. 5	NPO等各種団体との連携	66
	環境にやさしい交通を考える市民フォーラム in なごや	66
4. 6	学術講演会・公開講座の実施	67
4. 7	シンポジウム	77
	小中学校・地域と大学との教育連携～スクールボランティアを通して～	77
4. 8	研究会	79
	公共政策研究会	79
	環境共生研究会	80
	文理連携研究会	81
4. 9	学術文化交流センターの管理・運営	83
4. 10	広報活動	84
5	産学連携推進室	85
5. 1	要綱	87

5. 2	構成員	88
5. 3	知的財産セミナー	89
5. 4	共同研究・受託研究等	90
6	この一年を振り返って	93
7	参考資料	95
	学術文化交流センター利用内訳（平成20年度）	99
	学術文化交流センター月別利用状況（平成20年度）	110
	広報活動	111

1 この一年

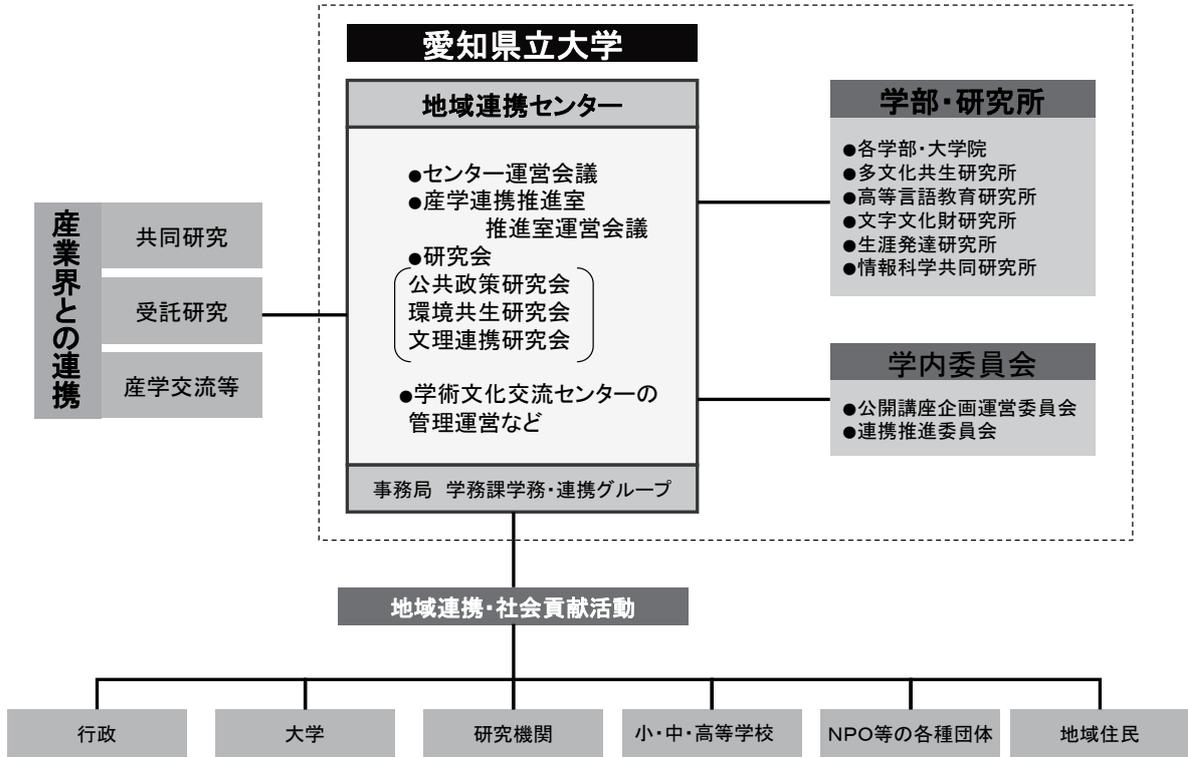
地域連携センター行事

		行事	
		連携推進委員会関係	公開講座企画運営委員会関係
4月	25日	第1回連携推進委員会	
5月	7日	瀬戸市教育委員会とボランティア学生派遣に関する協定締結	9日 第1回公開講座企画運営委員会
6月	11日	ICT能力向上研修	7日 公開講座
	13日	ICT能力向上研修	「知の探検・・・ソフトウェア、数学、ビジョン」
	18日	長久手町小学生留学生授業（長久手西小学校）	14日 公開講座
	25日	公共政策研究会	「知の探検・・・ソフトウェア、数学、ビジョン」
			21日 公開講座
			「知の探検・・・ソフトウェア、数学、ビジョン」
			28日 公開講座「世界文学への道案内」
7月	11日	豊田市国際理解教育小学生国際理解教育授業 （豊田市立中山小学校）	5日 公開講座「世界文学への道案内」
	25日	第2回連携推進委員会	12日 公開講座「世界文学への道案内」
			25日 第2回公開講座企画運営委員会
8月	1日	豊田市国際理解教育小学生国際理解教育授業 （豊田市立追分小学校）	
9月			
10月	7日	ICT能力向上研修	15日 学術講演会
	8日	第1回中部の明日を考える連続講演会 「世界から見た日本・中部」	「がん早期発見のためのコンピュータ支援画像診断 最前線」
	14日	ICT能力向上研修	17日 第3回公開講座企画運営委員会
	17日	第3回連携推進委員会	
	24日	第2回中部の明日を考える連続講演会 「国産旅客機MRJを世界の空へ」	
	29日	第3回中部の明日を考える連続講演会 「国際化の進展と地域づくり」	
	30日	シンポジウム 「小中学校・地域と大学との教育連携 ～スクールボランティアを通して～」	
	31日	研究会「環境との共生を考える」 （環境共生研究会）	
11月	5日	第4回中部の明日を考える連続講演会 「技術力と持続可能型地域づくり」	4日 学術講演会 「アメリカ大統領選挙と今後の国際関係」
	7日	第5回中部の明日を考える連続講演会	8日 公開講座「ヨーロッパ近代への視線」

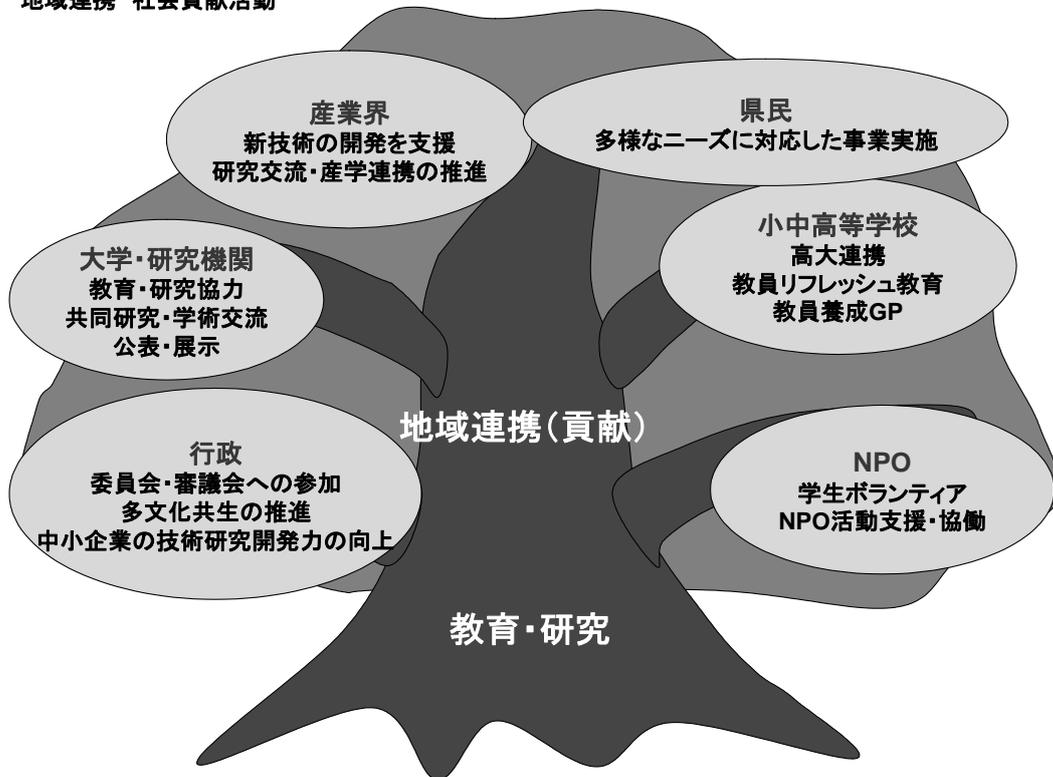
	<p>「中部地域と広域観光」</p> <p>11日 第1回大学知財セミナー 「知的財産制度の仕組みと特許明細書の書き方」</p> <hr/> <p>11日 ～ フロンティア21エレクトロニクスショー 2008</p> <p>13日</p> <hr/> <p>12日 あいち地域づくり実践講座</p> <hr/> <p>15日 ～ 第2回人と自然の共生国際フォーラム</p> <p>16日</p> <hr/> <p>25日 第6回中部の明日を考える連続講演会 「中部の空と明日」</p> <p>26日 あいち地域づくり実践講座</p> <p>29日 環境にやさしい交通を考える市民フォーラム in なごや</p>	<p>8日 公開講座「今を生きる『知』」</p> <p>15日 公開講座「ヨーロッパ近代への視線」</p> <p>15日 公開講座「今を生きる『知』」</p> <p>22日 公開講座「ヨーロッパ近代への視線」</p> <p>22日 公開講座「今を生きる『知』」</p>
12月	<p>3日 あいち地域づくり実践講座</p> <p>5日 第2回大学知財セミナー 「名古屋市立大学の知財管理と産学連携の実例紹介」</p> <p>25日 地域政策課との意見交換会</p>	<p>2日 第4回公開講座企画運営委員会</p>
1月	<p>28日 文理連携研究会 講演「ICTを活用した英語教育 —Nintendo DS と e-Learning」</p>	<p>27日 第5回公開講座企画運営委員会</p>
2月	<p>2日 瀬戸市商工会議所・情報科学部との共催のパソコン講習会（基礎コース、応用コース）</p> <p>6日</p> <hr/> <p>20日 緊急ミニ・シンポジウム (公共政策研究会共催事業)</p>	
3月		<p>3日 第6回公開講座企画運営委員会（メール会議）</p> <p>16日 第7回公開講座企画運営委員会（メール会議）</p>

2 組織と運営

地域連携センター組織図



地域連携 社会貢献活動



2. 1 センター運営会議

愛知県立大学地域連携センター規程

(趣旨)

第1条 この規程は、愛知県立大学学則第5条第2項の規定に基づき、地域連携センター（以下「センター」という。）の運営に関する基本的事項について定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、地域連携活動を円滑かつ組織的に推進することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、その目的を達成するために、次に掲げる業務を行う。

- (1) 行政との連携に関すること。
- (2) 他大学・研究機関等との連携に関すること。
- (3) 産業界との連携に関すること。
- (4) 小・中・高等学校との連携に関すること。
- (5) NPO等各種団体との連携に関すること。
- (6) 学術講演会、公開講座の企画・立案・実施に関すること。
- (7) 学術文化交流センターの管理・運営に関すること。
- (8) その他センター長が適当と認めた業務

(センター長)

第4条 センターに、センター長を置く。

- 2 センター長は、学長の命を受け、センターの業務を掌理する。
- 3 センター長の任期は、2年とする。ただし、任期の途中でセンター長が交替した場合は、後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 センター長に事故がある場合は、センター長が予め指名したセンター長補佐がセンター長の職務を代理する。

(センター長補佐)

第5条 センターに、センター長補佐を置く。

- 2 センター長補佐は、学長がセンター長と協議の上指名する。
- 3 センター長補佐は、センター長の命を受け、センター長の職務を補佐する。
- 4 センター長補佐の任期は、1年とする。ただし、任期の途中でセンター長補佐が交替した場合は、後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター運営会議)

第6条 センターの業務を円滑に運営するため、センター運営会議を置く。

- 2 センター運営会議は次の者をもって組織し、議長はセンター長をもって充てる。
 - (1) センター長
 - (2) センター長補佐

(3) 学務課学務・連携グループ班長

3 運営会議はセンター長が召集する。

(委員会)

第7条 第3条の業務に係る重要な事項について審議するため、次の委員会を置く。

(1) 連携推進委員会

(2) 公開講座企画運営委員会

2 前項の委員会に関して必要な事項は、別に定める。

(事務)

第8条 センターの事務は、学務課で行う。

(補則)

第9条 この規程に定めるセンターの運営に関し必要な事項は、学長が定める。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

地域連携センター運営会議名簿

所 属	平成20年度運営会議氏名
議長（地域連携センター長）	安 川 博
地域連携センター長補佐	小 池 康 弘
地域連携センター長補佐	松 宮 朝
学務・連携グループ長	大 羽 市 郎

地域連携センター事務

所 属	氏 名
学務課	安 藤 章 二
学務課	林 英 文

運営会議

議題（２００８年４月～２００９年３月）

	開催日	議 題
平成２０ 年 度 第１回	４月 ２日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 瀬戸市教育委員会との協定書締結について ・ 第１９回世界少年野球大会愛知・名古屋大会について ・ ３研究会（公共政策研究会・環境共生研究会・文理連携研究会）の運営方法について ・ 「県立大学のすべて大公開週間」のための計画、企画運営について ・ 第１回公開講座企画運営委員会の報告及び議題について ・ 第１回連携推進委員会の報告及び議題について
平成２０ 年 度 第２回	４月１０日	<ul style="list-style-type: none"> ・ ３研究会の運営方法について ・ 連携推進委員会の運営方法について ・ 公開講座企画運営委員会の運営方法について ・ 産学連携推進室の運営方法について
平成２０ 年 度 第３回	４月１７日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種委員会等のメンバーの再提案について ・ 第１回公開講座企画運営委員会の議題について ・ 第１回産学連携推進室運営会議の議題について ・ 「県立大学のすべて大公開（仮称）」に係る地域連携センター関連企画について
平成２０ 年 度 第４回	４月２４日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域連携センターの大公開週間の企画について ・ 連携推進委員会の議題について ・ 公開講座のリーフレットの作成について ・ 公開講座の受講料の改定について
平成２０ 年 度 第５回	５月 １日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 瀬戸市教育委員会との協定締結式の進め方について ・ 平成１９年度の地域連携センター年報について ・ 平成２０年度公開講座リーフレットの作成について
平成２０ 年 度 第６回	５月１５日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長久手町教育委員会との協定に基づく学生の派遣等について ・ 瀬戸市教育委員会との協定に基づく学生の派遣等について ・ 平成２０年度各事業予算配分について ・ 愛知県地域振興部地域政策課の来学（視察）対応について

平成20 年 度 第7回	5月29日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長久手町教育委員会との協定に基づく学生の派遣について ・ 瀬戸市教育委員会との協定に基づく学生の派遣について ・ 県教育委員会生涯学習課「学びの特派員」の取り組みについて ・ 年報の記載内容の修正の取り組みについて ・ 「県立大学のすべて大公開（仮称）」におけるセンターの取り組みについて
平成20 年 度 第8回	6月 5日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 瀬戸市教育委員会との協定に基づく学生の派遣等について ・ 県教育委員会生涯学習課「学びの特派員」の取り組みについて ・ 年報の記載内容の修正の取り組みについて ・ 「県立大学のすべて大公開（仮称）」におけるセンターの取り組みについて
平成20 年 度 第9回	6月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協定に基づくスクールボランティアの進め方について ・ 「県立大学のすべて大公開（仮称）」におけるセンターの取り組みについて
平成20 年 度 第10回	6月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「県立大学のすべて大公開（仮称）」におけるセンターの取り組みについて ・ 公開講座の次年度以降のあり方について ・ 産学連携推進室のあり方について
平成20 年 度 第11回	6月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「県立大学のすべて大公開（仮称）」におけるセンターの取り組みについて ・ 「中部の明日を考える講演会」（県地域政策課）への共催について ・ 協定に基づく学生ボランティア活動の位置づけについて
平成20 年 度 第12回	7月 3日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「県立大学のすべて大公開（仮称）」におけるセンターの取り組みについて ・ 「環境にやさしい交通体系を考える市民フォーラム in なごや」の共催について ・ 公開講座の次年度以降のあり方について ・ 産学連携推進のあり方について

平成20年度 第13回	7月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「スクールボランティアの課題」シンポの企画内容について ・ 公開講座の次年度以降のあり方について ・ 「地域づくり人材育成事業」の企画案の策定について ・ 平成21年度新規・増額要求について
平成20年度 第14回	7月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大公開シンポ「小中学校・地域と大学との教育連携」の企画内容について ・ 公開講座の次年度以降のあり方について ・ 「地域づくり人材育成事業」の企画案の策定について ・ 環境共生研究会・情報科学共同研究所合同「COP10」勉強会（仮称）の開催について
平成20年度 第15回	7月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大公開シンポ「小中学校・地域と大学との教育連携」の企画内容について ・ 公開講座・学術講演会の新しいあり方について ・ 平成21年度予算要求について
平成20年度 第16回	7月31日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公開講座・学術講演会の新しいあり方について ・ 平成20年度計画について
平成20年度 第17回	8月7日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新・県大ファンファーレの地域連携センターの企画・実施について ・ 地域づくり人材育成事業のコーディネータ候補者について ・ フロンティア21エレクトロニクスショーの参加について
平成20年度 第18回	8月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新・県大ファンファーレの地域連携センターの企画・実施について（展示、シンポジウム、研究会「環境との共生を考える」、学術講演会） ・ 地域づくり人材育成事業について ・ 西尾市との契約締結について
平成20年度 第19回	9月4日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新・県大ファンファーレの地域連携センターの企画・実施について（展示、シンポジウム、研究会「環境との共生を考える」、学術講演会） ・ 地域づくり人材育成事業について ・ 西尾市との契約締結について ・ 教員研修に係る講師人材バンクについて

平成20 年度 第20回	9月 8日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新・県大ファンファーレの地域連携センターの企画・実施について（展示、シンポジウム、研究会「環境との共生を考える」、学術講演会） ・ 地域づくり人材育成事業について ・ 西尾市との契約締結について
平成20 年度 第21回	9月29日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新・県大ファンファーレにおける所管企画の具体的な動き・役割分担について ・ 「中小企業支援機関担当者会議（仮称）」参画について ・ 第3回公開講座企画運営委員会の議題について ・ 第3回連携推進委員会の議題について
平成20 年度 第22回	10月 3日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新・県大ファンファーレにおける所管企画の具体的な動き・役割分担について ・ 「中小企業支援機関担当者会議（仮称）」参画について ・ 第3回公開講座企画運営委員会の議題について ・ 第3回連携推進委員会の議題について
平成20 年度 第23回	10月 7日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学術講演会（10月23日）の対応について
平成20 年度 第24回	10月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新・県大ファンファーレにおける所管企画の具体的な動き・役割分担について ・ 「中小企業支援機関担当者会議（仮称）」参画について ・ 第3回公開講座企画運営委員会の議題について ・ 第3回連携推進委員会の議題について
平成20 年度 第25回	10月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新・県大ファンファーレにおける所管企画の具体的な動き・役割分担について ・ 「中小企業支援機関担当者会議（仮称）」参画について ・ 第3回公開講座企画運営委員会の議題について ・ 第3回連携推進委員会の議題について
平成20 年度 第26回	10月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新・県大ファンファーレにおける所管企画の具体的な動き・役割分担について ・ 公開講座・学術講演会の新しいあり方について ・ 連携推進委員会の新しいあり方について ・
平成20 年度 第27回	11月 7日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公開講座・学術講演会の新しいあり方について ・ 連携推進委員会の新しいあり方について

平成20年度 第28回	11月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公開講座・学術講演会の新しいあり方について ・ 連携推進委員会の新しいあり方について ・ 中期計画の進捗状況について ・ ファンファーレ関連各イベントのまとめの作成について ・ 年報の作成スケジュールについて
平成20年度 第29回	11月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公開講座・学術講演会の新しいあり方について
平成20年度 第30回	11月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公開講座・学術講演会の新しいあり方について
平成20年度 第31回	12月 5日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公開講座・学術講演会の新しいあり方について ・ 理事長特別研究費への対応について
平成20年度 第32回	12月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の取り組み 平成20年度の残りの動き 平成21年度に向けた動き
平成20年度 第33回	1月 9日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の取り組み 平成20年度の残りの動き 平成21年度に向けた動き ・ その他 教職支援室関連事項
平成20年度 第34回	1月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の取り組み 平成20年度の残りの動き 平成21年度に向けた動き ・ その他
平成20年度 第35回	2月 5日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の取り組み 平成20年度の残りの動き 平成21年度に向けた動き ・ その他
平成20年度 第36回	2月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の取り組み 平成20年度の残りの動き 平成21年度に向けた動き ・ その他

平成20 年度 第37回	2月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の取り組み 平成20年度の残りの動き 平成21年度に向けた動き ・ その他
平成20 年度 第38回	2月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の取り組み 平成20年度の残りの動き 平成21年度に向けた動き ・ その他
平成20 年度 第39回	3月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の取り組み 平成20年度の残りの動き 平成21年度に向けた動き ・ その他

2. 2 連携推進委員会

愛知県立大学連携推進委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、地域連携センター（以下「センター」という。）に設置する連携推進委員会（以下「委員会」という。）について、地域連携センター規程第7条第2項の規定に基づき、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の事項について審議するものとする。

- (1) 行政との連携に関すること
- (2) 他大学・研究機関等との連携に関すること
- (3) 産業界との連携に関すること
- (4) 小・中・高等学校との連携に関すること
- (5) NPO等各種団体との連携に関すること
- (6) その他の必要事項

(組織)

第3条 委員会は、次の委員をもって組織する。

- (1) 地域連携センター長
- (2) 地域連携センター長補佐
- (3) 各学部及び大学院研究科（情報科学研究科は情報科学部が兼ねる）から選出された者 各1名
- (4) 地域連携センター長が指名する事務職員

2 委員会に、委員長を置き、地域連携センター長をもって充てる。

3 委員の任期は、1年とする。

(会議及び運営)

第4条 委員長は、会議を招集し、その議長となる。

2 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代理する。

3 委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ開くことができない。

4 会議の議事は、出席者の過半数の同意をもって決することとし、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を認めることができる。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、学務課が担当する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

連携推進委員会委員名簿

所 属	平成20年度委員氏名
委員長(地域連携センター長)	安 川 博
地域連携センター長補佐	小 池 康 弘
地域連携センター長補佐	松 宮 朝
文学部選出	池 田 周
外国語学部選出	奥 野 良 知
情報科学部・情報科学研究科選出	小 栗 宏 次
国際文化研究科選出	大 野 誠
事務職員	安 藤 章 二

連携推進委員会

議題（2008年4月～2009年3月）

	開催日	議 題
平成20 年 度 第1回	4月25日	<ul style="list-style-type: none">・ 連携推進委員会の運営方法について・ 地域連携センター関連の大公開週間の企画について
平成20 年 度 第2回	7月25日	<ul style="list-style-type: none">・ 地域連携案件の推進と実施体制について
平成20 年 度 第3回	10月17日	<ul style="list-style-type: none">・ 連携推進委員会のあり方について・ 愛知県との定例ミーティング（中期計画項目）について

2. 3 公開講座企画運営委員会

愛知県立大学公開講座企画運営委員会規程

(趣 旨)

第1条 この規程は、地域連携センター（以下「センター」という。）に設置する公開講座企画運営委員会（以下「委員会」という。）について、地域連携センター規程第7条第2項の規定に基づき、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 公開講座の企画・立案・実施に関すること
- (2) 学術講演会の企画・立案・実施に関すること
- (3) その他公開講座及び学術講演会に関すること

(組 織)

第3条 委員会は、次の委員をもって組織する。

- (1) 地域連携センター長
 - (2) 地域連携センター長補佐
 - (3) 各学部及び大学院（情報科学研究科は情報科学部が兼ねる）から選出された者 各1名
 - (4) 地域連携センター長が指名する事務職員
- 2 委員会に、委員長を置き、地域連携センター長をもって充てる。
- 3 委員の任期は、1年とする。

(会議及び運営)

第4条 委員長は、会議を招集し、その議長となる。

- 2 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代理する。
- 3 委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ開くことができない。
- 4 会議の議事は、出席者の過半数の同意をもって決することとし、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を認めることができる。

(庶 務)

第6条 委員会の庶務は、学務課が担当する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

公開講座企画運営委員会委員名簿

所 属	平成20年度委員氏名
委員長（地域連携センター長）	安 川 博
地域連携センター長補佐	小 池 康 弘
地域連携センター長補佐	松 宮 朝
文学部選出	佐 野 治
外国語学部選出	木 下 郁 夫
情報科学部・情報科学研究科選出	神 山 齊 己
国際文化研究科選出	土 田 伸 也
事務職員	安 藤 章 二

公開講座企画運営委員会

議題（2008年4月～2009年3月）

	開催日	議 題
平成20 年 度 第1回	4月18日	<ul style="list-style-type: none"> 平成21年度学術講演会の企画・運営方法等について 平成21年度公開講座の企画・運営方法等について
平成20 年 度 第2回	7月25日	<ul style="list-style-type: none"> 公開講座・学術講演会の新しいあり方について 平成20年度後半期の公開講座の運営について
平成20 年 度 第3回	10月17日	<ul style="list-style-type: none"> 公開講座・学術講演会の新しいあり方について
平成20 年 度 第4回	12月 2日	<ul style="list-style-type: none"> 公開講座・学術講演会の新しいあり方について
平成20 年 度 第5回	1月27日	<ul style="list-style-type: none"> 平成21年度公開講座・学術講演会について
平成20 年 度 第6回	3月 3日 (メール会議)	<ul style="list-style-type: none"> 平成21年度公開講座・学術講演会について
平成20 年 度 第7回	3月 16日 (メール会議)	<ul style="list-style-type: none"> 平成21年度公開講座・学術講演会について

3 中期目標と年度計画

中期目標と年度計画

※ 計画の実施状況等は平成 21 年 2 月末の記載

第 1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

3 地域連携に関する目標

(1) 地域連携の実施体制に関する目標

中期目標

教育研究の成果を積極的に県民や社会に対して還元することは、公立大学の果たすべき大きな役割である。愛知県の設立する大学として、その存在意義を一層高めるため、愛・地球博の理念の継承も考慮に入れ、行政、他大学・研究機関、学校、産業界、NPO等との連携を強化しながら、より直接的かつ積極的に県民の生活と文化の向上、地域の課題の解決や地域経済の発展等に向けた貢献を行う。

また、「世界に貢献するあいち」を担う人材を育成するため、海外大学との学術交流を推進する。

(1) 地域連携の実施体制に関する目標

全学的な地域連携の推進を図るため、相談対応やコーディネートを行う機能を有するセンターとして、愛知県立大学に「地域連携センター」、愛知県立芸術大学に「芸術創造センター」、愛知県立看護大学に「看護実践センター」をそれぞれ平成 19 年度に設置し、地域連携活動を円滑かつ組織的に推進する。

また、地域連携活動に関する記録は、広く情報発信し、大学のPRを図るとともに、現場における実践の成果として将来の教育研究への活用を図る。

なお、平成 21 年度の愛知県立大学と愛知県立看護大学の統合時においては、「地域連携センター」の本部を長久手キャンパスに、支部として「看護実践センター」を守山キャンパスに設置する。

中期計画	年度計画	計画の実施状況等
<p>【新県立大学】</p> <p>125 ①-1 大学が、行政機関、産業界、他大学、研究機関及び県民各層、諸団体と連携して、教育研究の成果を社会に還元するとともに、県民の多様なニーズに対応した事業を実施するために、地域連携の窓口機能及び地域連携事業のコーディネート機能を果たす組織として、県立大学に「地域連携センター」、看護大学に「看護実践センター」を、それぞれ平成19年4月に設置する。</p> <p>新規 19年度設置</p>	<p>【県立大学】</p> <p>・平成19年4月に設置した「地域連携センター」において、県民の多様なニーズに対応した事業の実施に取り組むとともに、地域連携の窓口機能及び地域連携事業のコーディネート機能の更なる充実を図る。</p>	<p>【県立大学】</p> <p>・小中学校学生ボランティアの推進のほか、教育連携シンポジウム、環境共生研究会を企画すると共に、愛知県や市町村、行政、教育委員会、NPOなどと20を超える事業に共催協力、支援を行うなど多義にわたる活動を実施した。</p>
<p>125 ①-2 新県立大学の「地域連携センター」は、本部を長久手キャンパスに、支部として「看護実践センター」を守山キャンパスに設置する。</p> <p>新規 21年度設置</p>	<p>【県立大学・看護大学】</p> <p>・平成21年度統合後の相互連携機能のあり方について検討を行う。</p>	<p>【県立大学】</p> <p>・公開講座をはじめとする統合後の相互連携機能のあり方について調整・検討し、従来実施してきたそれぞれの事業を尊重しつつ、各キャンパスで更に充実発展させていくこととした。</p>
<p>【新県立大学】</p> <p>126 ② 産学連携に関わる研究の推進とコーディネートの機能を果たす組織として、地域連携センター内に「産学連携推進室」を設置する（県立大学）。</p> <p>新規 19年度設置</p>	<p>【県立大学】</p> <p>平成19年度に設置した「産学連携推進室」において、産学連携研究の推進とコーディネート機能の充実を図るため、学内の研究内容の収集及びデータベース化を進めると共に、地域企業への広報活動を積極</p>	<p>【県立大学】</p> <p>・産学連携推進のため、知的財産管理に関するセミナーなどを実施すると共に、ボランティア21エレクトロニクスショー2008や情報科学研究交流会などを通して企業への広報活動を積極的に行った。</p> <p>・学内研究内容の収集とデータベース化は広報委員会の大学ホームページの更新事業と連携するなど作業の効率化を念頭に進める。</p>

	的に推進する。	
<p>【共通】</p> <p>127 ① ホームページ、広報誌等を利用し、大学の地域連携情報（教員の研究分野、研究実績等の情報を含む。）を広く発信する。</p> <p>継続 19年度～実施</p>	<p>【3大学共通】</p> <p>・地域連携の促進を図るため、大学の地域連携情報をホームページ等により学外へ発信する。</p>	<p>【県立大学】</p> <p>・ホームページの情報を随時更新し、学外への発信をアップ・トゥ・デートに実施している。</p>
<p>【共通】</p> <p>128 地域連携活動実績の記録・集積を行い、広報のために活用するとともに、教育・研究へフィードバックする。</p> <p>継続 19年度～実施</p>	<p>【県立大学・看護大学】</p> <p>・地域連携に関する活動・貢献の実績を組織的・継続的に把握し、教育・研究への活用を図る。</p>	<p>【県立大学】</p> <p>・ホームページから随時情報更新を行い学外への発信を実施している。</p>

第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

3 地域連携に関する目標

(2) 各種機関との連携に関する目標

中期目標	<p>ア 行政との連携</p> <p>本県や地域が直面している様々な行政課題（少子・高齢化、国際交流、多文化共生、情報化、保健医療、芸術文化振興等）に対応し、行政の施策立案や実施に積極的に支援・協力をを行う等、行政のシンクタンクの機能を果たす。</p> <p>イ 他大学・研究機関等との連携</p> <p>教育研究において、他大学、研究機関等との連携・協力を推進し、大学の教育研究機能を活性化させることにより、地域貢献活動の質の向上を図る。</p> <p>ウ 教育委員会及び小・中・高等学校との連携</p> <p>教育委員会と連携し、小・中・高等学校における児童・生徒に対する学習支援や教員のリフレッシュ教育を積極的に展開する。</p> <p>また、高校生を高度な専門教育に触れさせ、その学習意欲の喚起や進路の選択に資するよう、高等学校との協力・連携を推進する。</p> <p>エ 産業界との連携</p> <p>愛知県立大学の情報科学分野、愛知県立芸術大学のデザイン・工芸分野及び愛知県立看護大学の保健医療福祉分野等、大学に蓄積された知識・技術・技能を産業界における新技術の開発や新たな創造に活用し、地域産業の活性化に寄与するとともに、連携可能な分野の拡大に努める。</p> <p>オ NPO等各種団体との連携</p> <p>多文化共生、保健・福祉、芸術振興等に関わるNPO等各種団体の活動の充実・強化に資するため、支援・協働を通じて、大学に蓄積された知識・技術・技能を地域へ還元する。また、学生のボランティア活動を促進するため、単位認定を検討する。</p>
------	---

中期計画	年度計画	計画の実施状況等
<p>【共通】</p> <p>129 ① 行政ニーズを把握するため、県と定期的な意見交換を行う。</p> <p>新規 19年度～実施</p>	<p>【3大学共通】</p> <p>・行政が抱える政策課題を把握するため、関係機関と定期的な意見交換を実施するとともに、事業・施策の共同実施など連携強化を推進する。</p>	<p>【県立大学】</p> <p>・愛知県地域振興課と「定期的」な意見交換の会を実施した。</p> <p>・関係行政機関との間で随時密接かつ頻繁に必要な意見交換を行った。</p>

	推進する。	
130 ② 県や市町村の審議会や委員会への参加等により、大学の専門的知識を生かし行政に助言・提言を行う。 継続 19年度～実施	【3大学共通】 ・平成19年度に立ち上げた「公共政策研究会」において、行政ニーズと学内シーズに係る情報の一元化、連携支援のためのコーディネート推進など、窓口機能の強化を図る。	【県立大学】 ・近隣市町の小中学校での教育現場の各種ニーズに対応する学生ボランティア派遣において情報管理の一元化をはかり連携のためのより効率的なコーディネートの推進を行った。 ・また、「公共政策研究会」を軸にこれら連携について更に問題点を議論するシンポジウム開催を推進した。(6月には関連研究活動の事例報告会、21年2月には緊急ミニ・シンポジウム「いま、在日ブラジル人、ペルー人に何が起きているか」を開催)
【新県立大学】 131 ③ 県産業技術研究所との連携を進め、地域の中小企業の技術研究開発力の向上に貢献する活動を充実させる(県立大学)。 継続 19年度～実施	【県立大学】 ・県産業技術研究所との「情報科学研究交流会」を継続し、地域の中小企業の技術開発力向上に向けて地域の中小企業の現状を分析・把握し、今後の共同研究、受託研究の新規開拓につなげていく。	【県立大学】 ・「情報科学研究交流会」を開催し、地域の中小企業のニーズを把握すると共に、産学連携の新たな開拓を目指す集会や事業への参加を企画した。
132 ④ 行政機関等と連携し、多文化共生のための調査研究を推進する(県立大学)。 継続 19年度～実施	【県立大学】 ・多文化共生に関して行政と意見交換を行い、順次調査研究に着手する。また、連携事業の可能性についても検討する。	【県立大学】 ・多文化共生研究所が、愛・地球博記念公園・公園マネジメント会議(準備会)の会長及び委員として、継続的に、行政(公園緑地課、長久手町、他)やNPO諸団体等と共同して、愛知万博の理念継承としての「環境共生」及び「多文化共生」に関して、定期的に意見交換を行い、連携事業を推進している。また、NPO団体との共同研究

		<p>を企画し外部資金の助成申請を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生研究所研究員の教員が、西尾市と意見交換を行いながら、日系ブラジル人をはじめとする外国人労働者・移住者に関する共同研究を推進している。 <p>(愛知県西尾市と調査に関する協定を締結し、9月に西尾市との共同で「西尾市外国人生活調査」を実施した。)</p>
<p>134 ⑥ 県の「知の拠点」計画に積極的に関わり、地域の科学技術研究の振興への協力を発展させる。</p> <p>新規 22年度～実施</p>	<p>【県立大学】</p> <p><平成22年度取組項目のため記載なし></p>	<p>【県立大学】</p>
<p>【共通】</p> <p>137 ① 愛知学長懇話会による単位互換制度の促進を図るとともに、同懇話会等を通じ、県内の他大学との教育・研究協力や地域連携協力を進める。</p> <p>継続 19年度～実施</p>	<p>【3大学共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネート科目の開設をはじめ、単位互換制度の充実、県内他大学との教育・研究協力の活性化に向けて検討を実施し、地域連携の視点からさらに積極的に関与していく。 ・戦略的大学連携プログラムの可能性について検討する。 	<p>【県立大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学長懇話会のコーディネート科目「持続可能な社会Ⅶ・Ⅷ」において本学教員が参画している。また、他大学との協力活性化に向けて単位互換解放科目を昨年度の21科目から25科目へと増やした。 ・4大学2関係自治体の連携を検討し、平成20年度「戦略的大学連携支援事業」に応募し、「共同図書環(館)のネットワークシステムの構築と新たな教養教育プログラムの開発」のテーマで採択された。
<p>【新県立大学】</p> <p>138 ② 他大学・研究機関・国際機関等との連携を推進して、学術シンポジウム・国際シンポジウムの開催に努め、共同研究・学術交流を促進する。</p>	<p>【県立大学・看護大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内外の学会、シンポジウム等、学術・文化的な集会の立案、共同研究、学術交流を推 	<p>【県立大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成20年9月に電気関係学会東海支部連合大会を本学で開催し、約1000人の参加者があり、学術活動に貢献した。 ・平成20年10月には新県大ファンファールと銘打って様々なシンポジウム等、学術・文化的な集会を企画開催し、その参加

<p>継続 19年度～実施</p> <p>139 ③ 徳川美術館等地域の文化的歴史的資料館と連携し、文字文化財の収集、分析、データベース化等の調査・研究とその公表・展示を通じて、地域文化の向上に資する（県立大学）。</p> <p>継続 19年度～実施</p>	<p>進ずる。</p> <p>【県立大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際シンポジウムの共同開催を通して、名古屋市蓬左文庫、愛知県立図書館、名古屋市博物館、荻野検校顕彰会、大御堂寺等との共同研究をすすめる。西尾市岩瀬文庫との共同企画を引き続きすすめる。その他、県内の文字文化財を所蔵する各団体との連携を推進する。 	<p>者は約延べ1万人を越えた。</p> <p>【県立大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛知県立図書館と「和本の世界」という展示を共同企画、実行し、愛知県立大学の蔵書を展示した。 ・荻野検校顕彰会、大御堂寺等とは国際シンポジウムにおいて、平曲、絵解きの実演をおこなった。平曲は他の部分を合わせて、DVDに収め、研究用の索引を付ける企画を進めている。絵解きはDVDを作り、愛知県の文化の1つとして、周知させることをめざす。他の機関との企画は引き続き具体化につとめた。
<p>【共通】</p> <p>141 ① 小・中・高等学校の総合的な学習の時間への参画等学習支援、高大連携を推進する。</p> <p>継続 19年度～実施</p>	<p>【3大学共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小・中・高等学校の総合的な学習の時間への参画など学習支援、高大連携について、組織的な取組の充実を図る。 ・オープンキャンパス、公開授業に高校生の参加を促す。 	<p>【県立大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成19年度の長久手町教育委員会に引き続き、平成20年5月に瀬戸市教育委員会とスクールボランティアに関する協定を締結した。長久手町、瀬戸市などでのスクールボランティア活動を推進すると共に、高大連携事業についても取り組み実施している。 ・オープンキャンパスでは全学科で模擬授業を行うとともに、平成20年度から新たに本学学生による相談コーナーを設け、大学生活等について高校生が相談しやすいようにした。
<p>142 ② 小中高校教員のリフレッシュ教育に貢献する（県立大学）。県大：継続 県立大学：19年度～実施、</p>	<p>【県立大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会や教育センター等との連携により、小中 	<p>【県立大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県教育委員会委嘱による現職教員(幼小中高)の認定講習の講師を、毎年引き受けている（平成20年度、8月、2日間かけ

<p>【新県立大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県総合教育センターと連携し、情報科目の指導内容を向上するための「情報教育長期研修生」の受入れを継続して実施する（県大）。 <p>継続 19年度～実施</p>	<p>学校教員のリフレッシュ教育や研修を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県総合教育センターと連携し、情報科目の指導内容を向上するための「情報教育長期研修生」の受入れを継続して実施する。 ・県総合教育センターと連携し、高校教員のICT能力向上のための研修実施を支援する。 ・教員免許更新研修事業への協力を検討する。 	<p>る7階 <6人、うち一人は2回実施>、延べ日数14日間)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛知県総合教育センターによる「教員研修に係る大学と教育委員会との連携委員会」委員及び同ワーキンググループ検討会委員として、本学から大学代表委員として参加している。 ・愛知県教育委員会による尾張地区小中学校の特別支援教育コーディネーター研修の助言者として参加している。 ・高浜市及び稲沢市の特別支援教育体制推進事業による幼保小中学校の巡回指導や校内研修の講師を務めている。 ・本学生涯発達研究所の事業の一環として、瀬戸市の小学校に巡回指導を実施している。また、特別支援教育に関する校内研修会や、全市の幼小中学校等を対象にシンポジウム（「発達障害フォーラム in SETO」平成20年11月29日）を開催した。 ・県総合教育センターと連携し、情報科目の指導内容を向上するための研究会を実施した。 ・高校教員のICT能力向上のための研修実施を支援した。 ・教員免許更新研修事業について平成21年度以降の実施体制を検討し、教職支援室にて事業を実施することとした。
<p>【新県立大学】</p> <p>143 ③ 県教育委員会及び高浜市等との連携により、教員養成GP「小学校への見通しを持った幼稚園教員養成」</p>	<p>【県立大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理事長特別予算事業に応募し、その支援を得て幼小連携力量、特に配 	<p>【県立大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教員養成GP」事業の継続を図るため、平成20年度、理事長特別研究費の交付を受け、下記の「軽度発達障害児の教育支援のための地域協働に関する総合事業」を実

<p>（「小1プロブレム」（1年生に見られる教室での荒れ）を起こさせない軽度発達障害児に対する対応力等をもった幼稚園教員養成）を実施する。さらに、この成果を教育現場と連携することにより、地域に広めるとともに、小学校教員についても同様な取組を行っていく（県立大学）。 継続 19年度～実施</p>	<p>慮の必要な幼児への深い理解と指導力を持つ幼稚園教員を養成する。</p>	<p>施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛知県教育委員会の「学習チューター派遣事業」や名古屋市、長久手町など県内各地教育委員会が実施するスクールボランティアへの学生派遣を行った。 ・「スクールボランティア研修講座」を開催した。 <p>これらを通して、本学における「サービス・ラーニング（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）」及び今後の一般教育におけるボランティア活動の単位化の在り方とシステム化について具体化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県市町教育委員会との協働による「軽度発達障害フォーラム」事業（尾張と三河の2カ所で開催）を実施し、「幼小ワークショップ（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）」の具体化を図った。 ・県教育委員会、県総合教育センター、NPO 法人立学校など教育現場の非常勤時間講師陣で構成する講義「児童教育特殊講義」と、ゲスト講師による「公開特別授業」を実施し、魅力ある授業づくりについて協働をすすめた。 ・県市町教育委員会・学校等と協働し、幼稚園、保育園、小学校、中学校、高校への巡回相談事業を実施し、教育・保育現場への支援を行った。 ・NPO 法人と連携し、生涯発達研究施設主催による「オープンカレッジ」事業等の継続・発展を図った。 <p>オープンカレッジとして、「食」をテーマに、「LD 青年のための大学教育入門（Ⅵ）」8回の公開特別授業や体験学習などを実施した。</p>
<p>144 ④ 文部科学省施策の「確かな学力」向上を目指した取組を実施している高等</p>	<p>【県立大学】 ・SELHi（スーパー・イングリッシュ</p>	<p>【県立大学】 ・通常の運営委員会（年3回）、6月の公開報告会、文部科学省実地調査での説明準</p>

<p>学校に協力支援を行う（県立大学）。</p> <p>継続 19年度～実施</p>	<p>ユ・ランゲージ・ハイスクール）など文部科学省施策の「確かな学力」向上を目指した取組を実施している高等学校に協力支援を行う。</p>	<p>備などの協力支援を行ない、SELHi の円滑な運営と目標の達成に寄与した。</p>
<p>【新県立大学】</p> <p>145 ① 情報科学分野で企業研究者等との共同研究を推進するとともに、受託研究等を通して産学連携による新技術開発等を支援する（県立大学）。</p> <p>継続 19年度～実施</p>	<p>【県立大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業との共同研究を推進するための研究プロジェクトを立案し、企業からの参加者に対して客員教授等の名称（制度）を導入することにより、大学と企業との産学連携体制の推進を図る。 	<p>【県立大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報科学共同研究所において、共同研究に向けての研究プロジェクトを立案（ITS 予防安全技術に関する研究、ニューロンインフォマティクスに関する研究等）した。また、科学技術交流財団の知の拠点に向けて研究テーマの提案を行った。 ・客員教授については企業の研究者の招へいを平成 21 年度計画し、産学連携を推進した。
<p>146 ② テクノフェア等産学交流会へ継続して参加し、また、県産業技術研究所との共同開催の情報科学研究交流会を継続し、大学の技術開発シーズを公開して、産業界との連携を推進する。このことによって、地域の中小企業の技術研究開発力の向上に貢献する（県立大学）。</p> <p>継続 19年度～実施</p>	<p>【県立大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県産業技術研究所との情報科学研究交流会に、地域の中小企業をはじめ学生の就職先企業への開催案内を実施し、より広く共同研究・受託研究先を求め、産学連携による新技術開発等の支援を行う。 	<p>【県立大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報科学研究交流会を 11 月 5 日に開催した。
<p>147 ③ 文化的社会的視点からの産学連携、情報と福祉、教育等との共同による産</p>	<p>【県立大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化的社会的視点からの産学連携 	<p>【県立大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 19 年度設置した文理連携研究会において、「ICT を活用した英語教育」と

<p>学連携の可能性を検討する (県立大学)。 新規 19年度～検討</p>	<p>を推進するために、企業からの共同研究・受託研究等の研究テーマ(プロジェクト)を検討する。</p>	<p>題して講演会を開催した。</p>
<p>【共通】 152 ① 学生のボランティア活動の授業への組み込みや単位化を進める。 新規 19年度～検討、 21年度～実施</p>	<p>【3大学共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動の範囲及び科目設定について検討し、平成21年度実施に向けて具体化する。 ・学校における学生によるボランティア活動を授業へ組み込み単位化する授業科目「サービスラーニング」を運営する。 	<p>【県立大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文科省「大学教育 GP」にスクールボランティアによる学士課程教育をテーマに応募した。また、ボランティア活動の授業への組み込みや単位化の推進を図るため平成20年10月30日に新県大ファンフェアレの諸行事の一環として「小中学校・地域と大学との教育連携へスクールボランティアを通して～」シンポジウムを開催した。 ・教育発達学科専門科目として小中学校でのボランティア活動を単位化する「サービス・ラーニング A,B,C」を新教育課程にも組み入れた。 ・児童教育学科では、平成19年度より、ボランティア活動を単位化する科目「サービスラーニング」を設置した。平成20年度は、ボランティア活動希望申し込み用紙や活動用紙を作成し、スクールボランティア研修講座(平成20年7月18日)を実施し、また、関係するシンポジウム(平成20年11月15日、11月29日)への学生の参加を促した。 ・学生のボランティア活動の授業への組み込みや単位化の推進を図っていくための一助として、平成20年10月30日、「小中学校・地域との教育連携へスクールボランティアを通して～」と題し、本学の学生等を対象にシンポジウムを開催した。 ・スクールボランティアの要請・派遣の窓

		<p>口として、「教職支援室」を設置し、窓口の一本化を図ることとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸市教育委員会との連携により、スペイン学科専門科目「基礎演習」履修学生などが授業の一環として外国人生徒支援のボランティアを实践した。
<p>【新県立大学】</p> <p>153 ② 多文化共生、福祉分野におけるNPO等の活動支援・協働を促進する（県立大学）。</p> <p>継続 19年度～実施</p>	<p>【県立大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生、福祉分野におけるNPO等各種団体との連携を促進する。各種機会を通じてその可能性拡大を検討する。 	<p>【県立大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新県大ファンファーレ」の一環とし「小中学校・地域と大学との教育連携」シンポジウム、ワークショップ「大地の子：日中の架け橋」など多文化共生、福祉分野におけるNPO等各種団体と連携したシンポジウム、研究会など多数の企画を実施した。
<p>154 ③ 県民のQOL（クオリティ・オブ・ライフ：生活の質）の向上に向け、子育て支援、障害者支援、健康増進支援、在日外国人支援などを目的とするNPO等各種団体との連携を促進する。</p> <p>継続 19年度～実施</p>	<p>【県立大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援、障害者支援、在日外国人支援などを目的とするNPO等各種団体との連携を促進する。 ・全学向け副専攻課程「日本語教員課程」において、外国人支援を目的としたNPO法人、国際交流協会、教育委員会、市民活動ネットワーク等との事業連携や各機関への学生ボランティア参加を通して連携活動を促進する。 ・それぞれの事業 	<p>【県立大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援NPO、障害者支援NPOとの共同シンポジウム開催を平成20年11月に開催した。 ・在日外国人支援のNPOとの連携については、愛知県西尾市の「西尾市外国人との共生を考える会」との連携で、平成20年9月に実態調査を行い、21年2月に西尾市にて、調査報告を兼ねたシンポジウムを実施した。 ・「日本語教員課程」の授業科目「日本語教育実習」では、担当教員および履修学生全員が「NPO法人「保見ヶ丘日本語教室」に地域ボランティアメンバーとして参加し、実習の学習の場とし、継続的な連携活動をしている。 ・履修学生の一部が名古屋工業大学で、留学生の家族対象の日本語教室でボランティアを行っている。 ・授業の一環として「九番団地日本語教室」（名古屋市）、「四日市日本語サークル」、

	<p>について連携を行うための窓口を設置し、ホームページ等で広報する。</p>	<p>瀬戸市「日本語教室「あいうえお」」などに教員の引率で学生が見学に行き、見学後に学生が教室活動に関する提案レポートを提出している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業科目以外の活動として、豊田市教育委員会「ことばの教室」、豊田市立西保見小学校に学生ボランティア（計8名）を派遣している。同時に同校の協力を得て学生の自主企画研究の指導活動として、教員と学生による、「外国人保護者向け一日日本語講座」を実施した。 ・学生の指導を通して、外国人児童・生徒向けの教材作成および進路意識調査アンケート実施など、地域の公立学校などと連携を取りながら活動を進めている。 ・小牧市立桃ヶ丘小学校を中心とした小牧市の小中学校国際教室の担当教員との連携活動も開始し、今後の活動の場を開拓している。 ・県内外の近隣地域における外国籍児童・生徒の支援活動に携わる人々を本学に招聘し、講義・発表をおこなう会を11月までに3回実施した。これが外国籍のこども支援活動の情報交換の場ともなりつつある。 ・地域連携センターでホームページから各種の地域連携情報を発信し広報普及に努めている。
--	---	---

第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

3 地域連携に関する目標

(3) 県民への対応に関する目標

中期 目 標	<p>ア 公開講座等の開催 公開講座、展覧会、演奏会等を開催し、県民の多様な生涯学習のニーズに積極的に 対応する。</p> <p>イ リカレント教育の実施 リカレント教育の需要に対応して、サテライトキャンパスを活用した社会人の大学 院教育の充実や看護師を始めとした職業人のキャリアアップのための新しい知 識・技術・技能を修得する機会の提供に取り組む。</p>
--------------	---

中期計画	年度計画	計画の実施状況等
<p>【共通】</p> <p>156 ① 公開講座、学術講演 会、出張講座・出張授業、講 師派遣などを充実する。 継続 19年度～実施</p>	<p>【県立大学】</p> <p>・学部企画講座と して、文学部：「今 を生きる『知』」、 外国語学部：「ヨー ロッパ近代への視 線」、情報科学部： 「『知の探検』… ソフトウェア、数 学、ビジョン」、国 際文化研究科：「世 界文学への道案内」の4講座を開 催する。</p>	<p>【県立大学】</p> <p>・情報課学部：「『知の探検』…ソフトウェ ア、数学、ビジョン」を平成20年6月に、 国際文化研究科：「世界文学への道案内」 を6～7月に開催した。文学部：「今を生 きる『知』」、外国語学部：「ヨーロッパ近 代への視線」を11月に開催した。</p>
	<p>学術講演会とし て、情報科学部： 「がん早期発見の ための画像診断最 前線(仮題)」、文 学部：「未来を担う 子どもを育てるた めに・教育学の</p>	<p>情報科学部：「がん早期発見のためのコン ピュータ支援画像診断最前線」、外国語学 部：「アメリカ大統領選挙と今後の国際関 係」を11月に開催した。</p>

	軌跡と役割を振り返りつつ・(仮題)」、外国語学部「デモクラシーの帝国(仮題)」の3企画を開催する。	
<p>【新県立大学】</p> <p>157 ② 生涯発達研究施設を中心に、子育て支援や高齢者・障害者の権利擁護に関する諸機関・関係団体等のデータベース化を進め、子育て、精神保健、LD(学習障害)、高齢者・障害者の権利擁護等の相談事業、研究事業、研修事業、発達・臨床事業(オープンカレッジ「LD青年のための大学教育入門」開催等)をさらに充実させる(県立大学)。</p> <p>継続 19年度～実施</p>	<p>【県立大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援や高齢者・障害者の権利擁護等について、諸機関・関係団体等のデータベース化を維持更新する。 ・子育て支援、LD、高齢者・障害者の権利擁護等の相談事業、研究事業、研修事業を、関係教員により実施する。また、実践的な研究・教育の場とするため、大学院生等を研修員として参加させる。 ・オープンカレッジを引き続き実施する。 	<p>【県立大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内の子育て支援に関わる諸機関・関係団体に、継続的にアンケート調査を実施しており、データベース化の継続更新を図っている。 ・データベース化の維持・更新及び研究資料等作成を研修員により実施した。 ・データベースの維持・更新及び研究資料等作成など実践的な研究・教育のため、大学院生を研修員として、アルバイト雇用した。また、相談事業・研修事業の一環として現場経験豊かな研修員により巡回指導を実施している。 ・LD青年のための大学教育入門(VI)は、「食」をテーマに、公開特別授業として、合宿体験学習などを織り交ぜ、全8回にわたって実施した。受講生はLD青年と本学学生等15～20名である。
<p>【新県立大学】</p> <p>160 ① リカレント教育の需要に対応して、社会人学生、研究生、科目等履修生の積極的受入れ等、社会人教育の推進を図る(県立大学)。</p> <p>継続 19年度～実施</p>	<p>【県立大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リカレント教育に関する全学的な基本方針を策定するとともに、社会人の受入方針を広く県民にホームペ 	<p>【県立大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目等履修生旧大学・新大学ともに受入れできるように規程の改訂をした。また、社会人学生・研究生・科目等履修生の受け入れについてはホームページなどで知らせている。

	<p>ージ等で公表し、社会人教育の積極的な展開を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省社会人学び直し事業として医療分野ポルトガル語スペイン語講座を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成20年10月9日から21年1月29日まで毎週木曜に開講し、51名が修了した。
<p>161 ② サテライトキャンパスを拠点とする社会人大学院教育の充実を図るとともに、同キャンパスの学部生の教育研究活動での活用、卒業生をはじめ一般社会への開放を検討する（県立大学）。 継続 19年度～実施</p>	<p>【県立大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育研究活動に資するサテライトキャンパスの活用方法を検討する。 ・サテライトキャンパス利用のガイドラインを作成・公表し、広く学内外者の活用を図る。 	<p>【県立大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際文化研究科将来計画ワーキンググループにおいて活用法について議論し、中国語、ポルトガル語、ロシア語を軸とした教育プログラムの検討を始め、GPへの応募を準備することとした。 ・平成19年度末に提出された「サテライトキャンパスの利活用について」を基に、多目的に利用できるようなあり方について検討を開始し、公開講座・教員免許更新講習・特別授業・学び直し教育プログラム等への活用が提案された。

第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

3 地域連携に関する目標

(4) 国際交流の推進に関する目標

中期目標

教育研究の活性化を図るとともに国際感覚の豊かな人材を育成するため、海外大学との学術交流を推進し、国際社会に貢献するとともに、その成果を地域に還元する。

中期計画	年度計画	計画の実施状況等
<p>【新県立大学】</p> <p>166 ① 学術交流協定校の拡充を図るとともに、協定校を中心とした海外大学や研究機関との学術交</p>	<p>【県立大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学術交流協定校の拡充を図る。 ・国際交流推進委員会において、協定校を中 	<p>【県立大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ローマ大学の研究センターと情報科学研究科間での学術交流協定を締結した（平成20年8月1日付）。 ・米国ラドフォード大学との学術交流協定

<p>流を推進する。 継続 19年度～実施</p>	<p>心とした海外の大学や研究機関との学術交流を推進する。</p>	<p>に向けて、国際教育センター長の来学（平成20年5月）、テクニカルライティングに関する講義・演習を実施した。（平成20年8月）</p> <p>・現在、ライプツッヒ大学（ドイツ）、サンパウロ大学（ブラジル）、アリゾナ州立大学（アメリカ）、ガジャマタ大学（インドネシア）の4大学について、学術交流協定の交渉中である。</p>
<p>【共通】 167 ② 独立行政法人日本学術振興会や独立行政法人国際交流基金が実施する研究者招へい等の事業を活用した外国人研究者の受入れや若手研究者の派遣について積極的に取り組む。 継続 19年度～実施</p>	<p>【3大学共通】 ・外国人研究者の受入れや若手研究者の派遣について、利用できる外部資金に係る情報を逐次収集し、教員へ配信し、研究交流支援を継続する。</p>	<p>【県立大学】 ・学術振興会の学術研究者招聘事業に採択され、フィンランド大学教授を招聘した。</p>
<p>168 ③ 海外への留学生の派遣や海外からの留学生の受入れを促進するため、奨学基金のあり方、海外への広報活動などの方策について充実・検討する。 新規 19年度～検討・実施</p>	<p>【県立大学】 ・海外への留学生の派遣や海外からの留学生の受入れを促進するため、外部奨学金情報の収集及び提供を学生支援センターで実施する。</p> <p>国際交流促進の方策について検討する。</p>	<p>【県立大学】 ・海外への留学生の派遣や海外からの留学生の受け入れを促進するため、積極的に学生支援機構等の奨学金や団体等の奨学制度の情報収集に努めている。</p> <p>・本学における国際交流体制のあり方を抜本的に検討するため、検討委員会を立ち上げた。</p>
<p>【新県立大学】 169 ④ 在住外国人児童・住民支援のための日本語教育等、多文化共生社会づくりを推進する活動を充実する（県立大学）。</p>	<p>【県立大学】 豊田市等において、在住外国人児童を支援するために日本語教育活動を実施する。 （平成20年度教育・</p>	<p>【県立大学】 ・豊田市立西保見小学校の協力を得て、同時に学生の自主企画研究の指導活動として、教員と学生とで、「外国人保護者向け一日日本語講座」を実施した。</p> <p>・学生の指導を通して、外国人児童・生徒</p>

<p>継続 19年度～実施</p>	<p>研究活性化推進費事業として「多文化共生社会の実現を担う人材養成をめざした地域における教育ネットワークの構築—外国人集住地区公立学校での日本語支援活動を通して—」を実施)</p>	<p>向けの教材作成および進路意識調査アンケート実施など、地域の公立学校などと連携を取りながら活動を進めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小牧市立桃ヶ丘小学校を中心とした小牧市の小中学校国際教室の担当教員との連携活動も開始し、今後の活動の場を開拓している。 ・県内外の近隣地域における外国籍児童・生徒の支援活動に携わる人々を本学に招聘し、講義・発表をおこなう会を4回、公開研究会を1回実施した。これらの会は外国籍のこども支援活動の情報交換の場ともなりつつある。
-------------------	---	--

- | |
|--|
| <p>第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標</p> <p>2 研究に関する目標</p> <p>(1) 研究の水準及び成果に関する目標</p> |
|--|

中期計画	年度計画	計画の実施状況等
<p>110 ③ 研究成果に対する知的財産権の獲得・管理を組織的に行い、その活用を図る。</p> <p>新規 19年度～実施</p>	<p>【3大学共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究成果に対する知的財産権の獲得・管理を組織的に行いその活用を図る。 	<p>【県立大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携センターにおいて、知的財産権の獲得・管理に関するセミナー、講習会を企画実施した。

第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
2 研究に関する目標
(2) 研究の実施体制に関する目標

中期計画	年度計画	計画の実施状況等
117 ⑤ 研究者、研究成果、特許等のデータベースを整備し、大学の知的財産の活用を促進する。 新規 19年度～実施	【県立大学・看護大学】 ・全教員の研究内容、研究成果、特許等をデータベース化し、ホームページ等により積極的に情報発信する。 ・大学が保有する知的・人的資源、研究能力をデータベースとして取りまとめ、企業等への提供を検討・実施する。	【県立大学】 ・平成20年度も引き続き、データベース等の更新を行い、整備を行い情報発信した。 ・データベースの効果的な提供方法等について検討を進め、展示や研究交流会を通して企業関係者に発信した。
【共通】 119 ⑦ 自大学における学会開催に対する支援を行い、研究活動のアクティビティの向上及び各種の共同研究の推進に資する。 継続 19年度～実施	【3大学共通】 ・学会開催を積極的に誘致し、研究発表の場として活用することにより、情報交換、人事交流による研究の活性化を図る。	【県立大学】 ・電気関係学会東海支部連合大会が本学で開催され(平成20年9月18日、19日)、東海地区の大学・研究機関との情報工学・情報科学等の分野についての交流を図った。
【新県立大学】 120 ⑧ 愛知県科学技術推進大綱第2期科学技術基本計画に基づく「知の拠点」基本計画の中の先導的	【県立大学】 ・「科学技術交流センター(仮称)」の計画推進に協力し、地域の諸研究組織との	【県立大学】 ・知の拠点計画の研究会に情報科学部教員が参加し計画推進に協力している。

<p>中核施設（科学技術交流センター（仮称））の計画推進に協力し、地域の諸研究組織との連携を図る（県立大学）。</p> <p>継続 19年度～実施</p>	<p>連携を図る。</p>	
<p>123 ② 受託・共同研究の促進、国・企業等からの外部研究資金導入促進を図る。</p> <p>継続 19年度～実施</p>	<p>【県立大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究支援組織による情報提供や事務的支援を積極的に行い、外部資金導入促進を図る。 ・平成19年度に設置した「地域連携センター」において、受託研究・共同研究の効果的な導入のための方策を検討・実施する。 	<p>【県立大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成20年度も引き続き、研究支援チームを中心として外部資金の獲得の支援を行う。情報科学部では、これまでに奨学寄附金3件、共同研究8件の計11件の企業等からの外部資金の導入を行った。 ・地域連携センターで引き続き受託研究・共同研究の獲得手法について研究を行い、外部資金獲得の支援を行った。 知的財産セミナーなどで実例による研究調査を進めた。

4 連携事業実績

4. 1 行政との連携

あいち地域づくり実践講座 実施結果

(愛知県地域振興部との共催)

名称

あいち地域づくり実践講座

開催日時 平成20年11月12日(水) 13時00～16:30

平成20年11月26日(水) 13時30～15:30

平成20年12月 3日(水) 13時30～15:30

会場 学術文化交流センター多目的ホール、小ホール、文化交流室 A

入場者

基調講演 174名

セミナー

	第1回	第2回	第3回
Aコース	39名	28名	30名
Bコース	26名	26名	24名
Cコース	28名	25名	23名

■基調講演会

講師：黒川 敬氏 (NHK「難問解決ご近所の底力」チーフ・ディレクター)

演題：地域コミュニティの活性化に向けて～今こそ、ご近所の底力～

コメント

あいち地域づくり実践講座の開講にあたり、地域コミュニティによる地域課題解決の先進的な取り組みの紹介をとおして、コミュニティ活動に対する共通理解を深めるとともに、今後、3回実施するセミナーの議論を促進することを目的に開催しました。

■セミナー

日時 第1回 11月12日(水) 14:15～16:30

第2回 11月26日(水) 13:30～15:30

第3回 12月 3日(水) 13:30～15:30

Aコース『地域福祉の実践』

(地域での認知症高齢者の見守りによる地域の安心の確保)

●コーディネータ：佐野 治准教授 (愛知県立大学文学部社会福祉学科)

●事例報告：北名古屋市福祉部



A コース 『地域福祉の実践』

B コース 『地域スポーツ・健康づくり』

(地域スポーツの振興や健康づくりの指導・普及活動の展開)

●コーディネータ：丸山 真司教授（愛知県立大学文学部児童教育学科）

(事例報告を兼ねる) 金尾 洋治教授（愛知県立看護大学）



B コース 『地域スポーツ・健康づくり』

C コース 『地域で展開する環境学習』

(身近な環境を生かした地域の環境学習活動の展開)

●コーディネータ：稲村 哲也教授（愛知県立大学文学部日本文化学科）

●事例報告：NPO 法人どんぐりモンゴリ

NPO 法人わくわく体験隊

ネイチャークラブ東海



C コース 『地域で展開する環境学習』

コメント

多様な地域課題の解決に向けて、行政に頼るだけでなく、住民自らが経験や知識を生かし、意欲をもって取り組んでいくのに必要な実践的なノウハウの修得やネットワークの形成を目的として開催しました。

中部の明日を考える連続講演会 実施結果 (愛知県地域振興部との共催)

講演

第1回 中部の明日を考える連続講演会

開催日時 平成20年10月8日(水) 13:30～15:30

会場 愛知県立大学講堂

入場者 計480名



プログラム

第1部 基調講演「世界から見た日本・中部」

(財団法人日本総合研究所所長・株式会社三井物産戦略研究所所長)

講師 寺島 実郎氏

第2部 パネルディスカッション「みんなで考える中部の姿

～中部圏広域地方計画への提案～

コーディネーター 中京大学総合政策学部長 奥野 信宏氏

パネリスト 社団法人中部経済連合会副会長 神尾 隆

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 エコミスト 内田 俊宏 氏

環境カウンセラー 浅野智恵美 氏

主催 愛知県、愛知県立大学

後援 名古屋商工会議所、社団法人中部経済連合会、中部圏広域地方計画協議会

中部の明日を考える連続講演会 実施結果
(愛知県地域振興部との共催)

講 演

第2回 中部の明日を考える連続講演会
「国産旅客機MRJを世界の空へ」

講 師

戸田 信雄氏
(三菱航空機株式会社代表取締役社長)

開催日時

平成20年10月24日(金) 14:00～16:00

会 場

愛知県立大学講堂

入 場 者

計210名



主 催 愛知県、愛知県立大学

後 援 名古屋商工会議所、社団法人中部経済連合会

中部の明日を考える講演会 実施結果
(愛知県地域振興部との共催)

講演

第3回 中部の明日を考える連続講演会
「国際化の進展と地域づくり
～留学生30万人計画と中部の明日～」

講師

有信 睦弘氏
(株式会社東芝顧問)

開催日時

平成20年10月29日(水) 14:00～16:00

会場

愛知県立大学学術文化交流センター 多目的ホール

入場者

計110名



主催 愛知県、愛知県立大学

後援 名古屋商工会議所、社団法人中部経済連合会、財団法人愛知県国際交流協会

中部の明日を考える講演会 実施結果

(愛知県地域振興部との共催)

講 演

第4回 中部の明日を考える連続講演会
「生産のグローバル化と中部のものづくり」

講 師

内山田 竹志氏
(トヨタ自動車株式会社取締役副社長)

開催日時

平成20年11月5日(水) 14:00~16:00

会 場

ホテル名古屋ガーデンパレス 3階 栄の間

入 場 者

計200名



主 催 愛知県、愛知県立大学

後 援 名古屋商工会議所、社団法人中部経済連合会

中部の明日を考える講演会 実施結果
(愛知県地域振興部との共催)

講 演

第5回 中部の明日を考える連続講演会
「中部地域と広域」

講 師

須田 寛氏
(社団法人日本観光協会中部支部長)

開催日時

平成20年11月7日(金) 16:00~17:30

会 場

ホテル名古屋ガーデンパレス 3階 栄の間

入 場 者

計160名



主 催 愛知県、愛知県立大学

後 援 名古屋商工会議所、社団法人中部経済連合会

中部の明日を考える講演会 実施結果

(愛知県地域振興部との共催)

講 演

第6回 中部の明日を考える連続講演会

「中部の空と明日」

講 師

山本 雄二郎氏

(高千穂大学客員教授、国土交通省交通政策審議会航空分科会委員)

開催日時

平成20年11月25日(火) 14:00~16:00

会 場

愛知県立大学学術文化交流センター

入 場 者

計170名



主 催 愛知県、愛知県立大学

後 援 名古屋商工会議所、社団法人中部経済連合会

第2回 人と自然の共生国際フォーラム 実施結果

開催日時 平成20年11月15日(土) 13:30~16:30

基調講演 「身近な森の魅力と魔力」

講師 ケビン・ショート氏(東京情報大学環境情報学科 教授・ナチュラリスト)

パネルディスカッション 「森林から考える人と自然の共生」

■コーディネータ

川井 秀一(京大大学生存圏研究所 所長・NPO 法人 才の木理事長)

■パネリスト

天野 正博(早稲田大学人間環境科学科 教授)

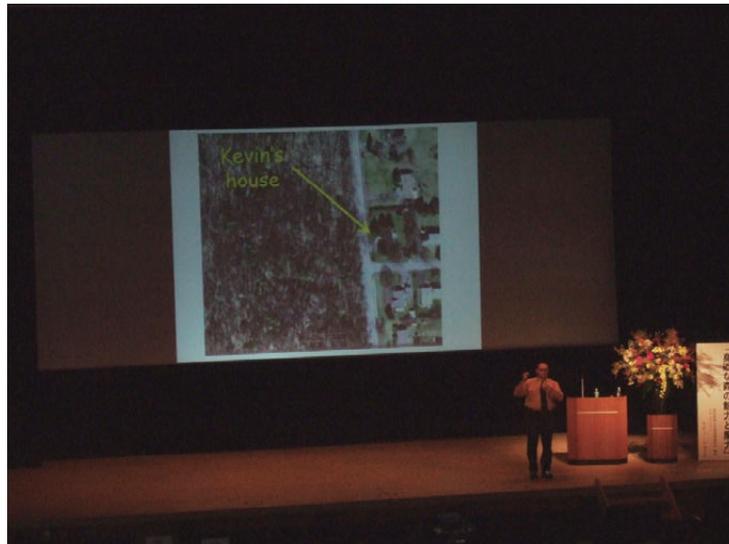
川勝 平太(静岡文化芸術大学 学長)

蔵治 光一郎(東京大学愛知演習林 講師)

小澤 紀美子(東京学芸大学 名誉教授・東海大学人間環境学科 教授)

会場 愛知県立大学 講堂

入場者 480名



愛知県総合教育センターとの連携事業 実施結果

(平成20年度 ICT 能力向上講座)

目的

コンピュータを利用した授業実践の方法に関する研修（科目別）を行い「コンピュータを用いて指導できる」資質能力を養成する。

概要

- ・教科情報を担当する高校教諭が受講する「情報長期研修」の実施
- ・愛知県総合教育センターが実施するICT能力向上研修への協力
- ・教科情報に関する懇談会（AICTEL）の開催

開催日

平成20年 6月～11月（ICT能力向上研修）

（愛知県立大学では、6月11日、6月13日、10月7日、10月14日に実施）

会場

愛知県立大学学術文化交流センターおよび愛知県総合教育センター

参加者 高等学校教員

内容

（研修状況）



（講義内容）

- ・ 情報機器を活用した授業・授業における著作権
- ・ 教育の情報化の目指すもの
- ・ 情報機器を活用した授業実践例の紹介

昨年度も実施している本学と愛知県総合教育センターが連携して実施する研修会で、本学では情報科学部地域情報科学科の奥田隆史准教授が中心に関わっている。

4. 2 他大学・研究機関との連携

■ 研究機関との連携

情報科学部と愛知県産業技術総合研究所との「情報科学研究交流会」の開催に協力しています。また、愛知県が次世代モノづくり技術を創造・発信する「知の拠点」づくりとして、先導的中核施設などの整備とあわせ、この施設で、産・学・行政が連携し実施する重点研究プロジェクトの計画を進めている中で、地域連携センターは参加希望教員と研究プロジェクト委員会との窓口業務を担当しています。

■ 他大学との連携

戦略的大学連携事業 ～総合的連携型（地元型）～

共同図書館（館）のネットワークシステムの構築と新たな教養教育プログラムの開発

愛知県立大学図書館は、名古屋東部丘陵地域の5つの県立・私立大学と2つの公共図書館が連携し、図書館どうしの本の返却の概念をなくすことによる共同蔵書作りと、これに連動する新たな教育学習情報の共有化ネットワークシステムの構築をめざし、さらに各大学の多様な個性・特色を活かした教養教育プログラムの共同開発、キャリア教育やFD・SDの共同実施、公開講座の合同開催に取り組んでいます。

4. 3 産業界との連携

情報科学研究交流会 ―情報技術による地域連携の推進に向けて― 実施結果

- 1 日時 平成20年11月5日(水) 13時から16時
- 2 場所 愛知県立大学 学術文化交流センター 小ホール、多目的ホール
- 3 主催 愛知県立大学情報科学部、愛知県産業技術研究所
- 4 プログラム
 - (1) 主催者挨拶 13:00～13:30
 愛知県立大学 学長 佐々木 雄太 小ホール
 愛知県産業技術研究所 所長 安井 克幸
 - (2) 講演会 13:30～14:00
 愛知県が取り組む「知の拠点」計画について 小ホール
 講師 愛知県産業労働部技監 山崎 辰夫
 - (3) 研究発表・交流会（ポスターセッション） 14:00～16:00
多目的ホール

ポスターセッション

愛知県産業技術研究所	
1	リハビリ支援ロボットへの利用を目的とした位置・姿勢計測システムの開発
2	切りくず吸引加工システムの開発
3	工業部材向けポリ乳酸アロイの開発
4	フレキシブル色素増感太陽電池用チタン多孔質電極の制膜技術
5	ステレオカメラを用いたロボット教示法の開発
6	農業用簡易センターネットワークシステムの開発
7	太陽電池を用いた可搬型非常用電源の開発
8	レーザ変位形状計測機の高精度化
9	高性能化に向けた個体高分子型燃料電池用電極層の改良と評価
10	グラフ彩色アルゴリズムによる織方図作成
11	圧縮変形時における糸の断面形状予測手法の開発
12	センサ織物

愛知県立大学情報科学部	
1 3	初期視覚情報処理のコンピュータモデル
1 4	プログラミング教育支援システムに関する研究
1 5	量子コンピュータのモデル化と解析に関する研究
1 6	サッカーロボットを例題とした行動知能システムの研究
1 7	セルオートマトンによる交通流のモデル化とシミュレーション
1 8	多配送センター・多人数巡回セールスマン問題のアントコロニー最適化法による解放
1 9	誤り訂正符号を用いた情報セキュリティの研究
2 0	車群の協調走行を実現する通信方式と挙動決定アルゴリズムに関する研究
2 1	地域保健医療福祉包括ケアシステムの推進と評価に関する研究
2 2	Web サイト間のモーふいんぐによる Web デザイニング支援
2 3	走行車群におけるアクティブ型車々間通信の研究
2 4	ユビキタスネットワークにおける性能評価技術に関する研究
2 5	計算化学システムによるタンパク質の構造センシング
2 6	高次スペクトルによる生体信号解析
2 7	適応フィルタによる交流雑音除去における参照信号の改良
2 8	移動物体の特徴に基づいた見やすい映像提示法に関する研究
2 9	環境センシングによる安心・安全を目指す信号検出手法の研究
3 0	時間ダイバーシティ効果を活用したセンサネットワークシステム
3 1	沿岸域の環境センシング研究
3 2	高速・高信頼・高安全な情報ネットワークのための量子情報通信の研究
3 3	ペトリネットによるシステムのモデル化に関する研究
3 4	2 値画像における高速ラベル付けアルゴリズムに関する研究
3 5	胸部 X 線画像からの肋骨減弱処理に関する研究
3 6	名古屋弁の秘密を探る
3 7	人工衛星による陸域環境監視支援に関する研究
3 8	particle Filter と Boosting の組み合わせによる移動体追跡の効率化
3 9	卵黄タンパク質分子進化のバイオインフォマティクスと代替遺伝子発現
4 0	生体信号を用いた予防安全技術に関する研究
4 1	次世代生体信号解析システムに関する研究

愛知県立大学及び産業技術研究所から最新の 4 1 テーマの研究内容の発表がありました。

フロンティア21エレクトロニクスショー2008 実施結果

1 日時 2008年11月11日(火)～11月13日(木)

2 場所 吹上ホール(名古屋市中小企業振興会館)

3 主催 中部エレクトロニクス振興会

4 出展

- (1) 愛知県立大学 情報科学共同研究所
- (2) 愛知県立大学 情報科学部 大学院 情報科学研究科
- (3) 愛知県立大学 地域連携センター

5 実施結果



6 内容

【情報科学共同研究所】

この4月に発足致しました「情報科学共同研究所」のご紹介を致します。企業の皆様と共同研究を進める事により、本学部及び大学院における大学教育の活性化を促進し、研究成果を産業界へと反映することを目指しています。

【情報科学部】

「愛知県立大学 情報科学部」及び「大学院 情報科学研究科」の研究内容・成果等について、ポスター、冊子、パンフレットを用いまして、ご紹介致します。

【地域連携センター】

法人化に伴い、設立致しました「地域連携センター」についてご紹介致します。本センターは大学と地域との連携活動を円滑且つ組織的に推進する事を目的とし、連携活動のコーディネートや支援を行い、情報の集積と発信・広報を行います。

瀬戸商工会議所とのパソコン講習会

1 目的

小規模事業者のレベルアップをはかるためにパソコン講習会を実施

2 概要

瀬戸商工会議所、情報科学部、地域連携センターとの共催のパソコン講習会

3 日程

平成21年2月2日（月）～2月6日（金）の5日間

18:30～20:30

4 会場

愛知県立大学情報科学部コンピュータ演習室

（演習室6：基礎コース、演習室2：応用コース）

5 参加者

瀬戸市内の小規模事業者 30名

6 講師

基礎コース			
2月2日	パソコン利用の基礎知識	安川 博	教授
2月3日	ワードでアンケート作り	永井 昌寛	准教授
2月4日	住所録・ラベル作成	太田 淳	准教授
2月5日	エクセルでアンケート集計	永井 昌寛	准教授
2月6日	プレゼンテーション資料づくり	河中 治樹	助教

応用コース			
2月2日	コンピュータネットワークの基礎知識	井手口 哲夫	教授
2月3日	“メール”の達人を目指す	小栗 宏次	教授
2月4日	“検索”の達人を目指す	山本 晋一郎	准教授
2月5日	“翻訳”の達人を目指す	横田 幸雄	教授
2月6日	“バーコード”の達人を目指す	粕谷 英人	助教



4. 4 小・中・高等学校との連携

市教育委員会との連携（近隣市町村の小中学校への学生派遣）

（1）瀬戸市教育委員会との協定締結（H20.5.7）

これまでに、留学生が瀬戸市立小学校等の行事への参加や大学院修了生が通訳ボランティアを行うなどの様々な交流活動を図っていました。平成20年度には、長久手町教育委員会との協定締結に続き、瀬戸市教育委員会と「学生ボランティアに関する協定」を締結しました。



長久手町学生ボランティア実施状況

学校	活動内容	大学からの派遣人数
長久手小学校	放課の遊び	2
	（その他、既に実施）	2
西小学校	ADHD 児童対応	3
	英語活動のチームティーチング	4
	（国際理解のための留学生派遣）	2※
東小学校	算数のチームティーチング	2
北小学校	英語活動のチームティーチング	4
南小学校	英語活動のチームティーチング	9
合計		28

※留学生

瀬戸市学生ボランティア実施状況

学校	活動内容	大学からの派遣人数
光陵中学校	外国人児童生徒対応支援	7
南山中学校	外国人児童生徒対応支援	3
八幡小学校	外国人児童生徒対応支援	6
下品野小学校	外国人児童生徒対応支援	5

原山小学校	外国人児童生徒対応支援	1
萩山小学校	外国人児童生徒対応支援	2
西陵小学校	英語活動支援	4
品野台小学校	(国際理解のための留学生派遣)	2※
合計		33

※留学生

留学生の派遣

(1) 小学校の総合の授業に留学生を派遣

長久手町立小学校および瀬戸市立小学校の総合の授業に留学生を派遣要請があり、本年度は、それぞれの市町村小学校（長久手西小学校、瀬戸市品野台小学校）に2名ずつ、留学生を派遣しました。

日時 6月18日（水）13：45－14：30（5時限目）

内容 長久手西小学校で国際交流の一環として、総合の授業で留学生が母国の話をしました。

参加留学生 ファン フー ズイ 君（情報科学部情報システム学科1年）
魯 文心（ろ ぶんしん） 君（情報科学部地域情報科学科1年）



ファン フー ズイ君



魯 文心君

(2) 豊田市国際交流協会での小学生への国際理解教育

昨年に引き続き、母国の文化を紹介する授業を文学部日本文化学科稲村哲也教授の研究室の学生が行いました。

主催 財団法人豊田市国際交流協会・豊田市教育委員会・豊田市
場所 とよたグローバルスクエア（豊田市産業文化センター3F）
日時（対象小学校） 7月11日（木） 10時～10時45分（豊田市立中山小学校）
8月 1日（金） 10時～10時45分（豊田市立追分小学校）
参加小学生 豊田市立中山小学校（105名）
豊田市立追分小学校（16名）

瀬戸教育委員会との協定書

協 定 書

愛知県公立大学法人愛知県立大学（以下「甲」という。）と瀬戸市教育委員会（以下「乙」という。）は、学校で教育活動支援を行うボランティア学生の派遣に関して、次のとおり協定を締結する。

（目的）

第1条 甲の派遣する学生が、瀬戸市立学校において、必要とされる教育活動の支援を行うことにより、教育活動の活性化を図るとともに、学生の資質の向上を図ることを目的とする。

（派遣学生の決定）

第2条 甲は、派遣学生の希望と学校の希望が一致する者を推薦し、学校の合意を得て学生を派遣する。

（活動の内容等）

第3条 派遣学生の活動内容、期間および条件については、校長と派遣学生との間で決定する。その他、当該活動について必要な事項は、当該校長と甲の担当者との合意により、決定する。

（活動の成果等）

第4条 活動の成果は両当事者に属し、速やかにこれを広く地域住民および県民に公開し、その利用に供するものとする。そのため甲乙両者は自らに属する刊行物等の可能な方法を用いるものとする。

（災害補償）

第5条 学生の派遣期間中の災害補償については、乙はその責任を負わない。

（保険加入）

第6条 甲は、派遣学生にボランティア保険等に加入させる。

（協定廃止）

第7条 本協定は、甲または乙の申し出により、協議の上、廃止できるものとする。

（雑則）

第8条 本協定に定める事項で疑義が生じたとき、または本協定に定めるもののほか、必要な事項については、甲乙協議の上、定めるものとする。

本協定は2通作成し、甲乙それぞれ記入押印のうえ、各自1通を保管する。

平成20年5月7日

甲 愛知県公立大学法人
愛知県立大学

学長

佐々木雄吉



乙 瀬戸市教育委員会

教育長

大澤義洋



長久手町教育委員会との協定書

協 定 書

愛知県公立大学法人愛知県立大学（以下「甲」という。）と長久手町教育委員会（以下「乙」という。）は、学校で教育活動支援を行うボランティア学生の派遣に関して、次のとおり協定を締結する。

（目的）

第1条 甲の派遣する学生が、長久手町立学校において、必要とされる教育活動の支援を行うことにより、教育活動の活性化を図るとともに、学生の資質の向上を図ることを目的とする。

（派遣学生の決定）

第2条 甲は、派遣学生の希望と学校の希望が一致する者を推薦し、学校の合意を得て学生を派遣する。

（活動の内容等）

第3条 派遣学生の活動内容、期間および条件については、学校長と派遣学生との間で決定する。その他、当該活動について必要な事項は、当該学校長と甲の担当者との合意により、決定する。

（活動の成果等）

第4条 活動の成果は両当事者に属し、速やかにこれを広く地域住民および県民に公開し、その利用に供するものとする。そのため甲乙両者は自らに属する刊行物等の可能な方法を用いるものとする。

（経費）

第5条 乙は、派遣される学生が必要とする経費のうち、当該学校への交通費については、所定の料金を支払う。

（災害補償）

第6条 学生の派遣期間中の災害補償については、乙はその責任を負わない。

（保険加入）

第7条 甲は、派遣学生にボランティア等の賠償責任保険等に加入させる。

（協定廃止）

第8条 本協定は、甲または乙の申し出により、協議の上、廃止できるものとする。

（雑則）

第9条 本協定に定める事項で疑義が生じたとき、または本協定に定めるもののほか、必要な事項については、甲乙協議の上、定めるものとする。

本協定は2通作成し、甲乙それぞれ記入押印のうえ、各自1通を保管する。

平成19年9月19日

甲 愛知県公立大学法人 愛知県立大学
学 長

佐々木雄太



乙 長久手町教育委員会
教育長

青山安彦



4. 5 NPO等各種団体との連携

「環境にやさしい交通を考える市民フォーラム in なごや」実施結果

1 主 旨

新しい交通政策への転換には、その重要さが多くの市民に理解され、支持される必要があり、市民相互のさらには関係者との共通の理解を深める地道な努力が今求められています。本フォーラムは、公共交通などを活用した環境にやさしいまちづくりについて学び考えるとともに、この地域の交通まちづくりネットワークづくりの促進を目的に開催しました。

2 テーマ 「つなごう 交通ネットと市民の活動」

3 日 時 平成20年11月29日（土）

4 場 所 愛知県立大学学術文化交流センター

5 主 催 特定非営利活動法人リニモクリエイト、市民協働ネットワークリニモねっと 共 催 愛知県立大学

後 援 あいちエコモビリティライフ推進協議会、愛知県、名古屋市、長久手町、 愛知高速交通株式会社

6 実施内容

①市民団体報告会 時間 10時00分～12時00分 場所 多目的ホール、文化交流室A、 小ホール	②入門講座「交通まちづくり入門」 時間 10時00分～11時30分 場所 文化交流室A
③シンポジウム&パネルディスカッション 時間 13時00分～15時50分 場所 多目的ホール	④展示会 時間 10時00分～18時00分 場所 学術文化交流センター2F
⑤リニモ見学会 時間 16時00分～17時50分 場所 愛知高速交通本社車両基地	⑥懇親会 時間 18時00～19時30分 場所 愛知県立大学生協食堂

7 参加人数 約150名

8 実施状況



4. 6 公開講座・学術講演会

平成20年度 愛知県立大学学術講演会 実施結果

講演テーマ

「がん早期発見のためのコンピュータ支援画像診断最前線」

講師

鈴木 賢治（シカゴ大学放射線科学研究科準教授・医用物理学研究科
およびがん研究センター准教授兼任）

実施日時

平成20年10月15日（水） 午後2時30分から午後4時

会場

学術文化交流センター 多目的ホール

入場者

	名簿あり	名簿無し	合計
一般予約	29	0	29
一般当日	0	1	1
学生一般	0	10	10
学生振替	22	133	155
教職員	11	0	11
合計	62	144	206

コメント 米国では、病気で死亡する人のおよそ4分の1が、悪性腫瘍（がん）で亡くなっています。本講演では、米国におけるコンピュータ支援診断の最新の研究成果を紹介します。（講師）



平成20年度 愛知県立大学学術講演会 実施結果

講演テーマ

「アメリカ大統領選挙と今後の国際関係」

講師
実施日時
会場
入場者

藤原 帰一 (東京大学大学院法学政治学研究科教授)
平成20年11月4日(火) 午後2時30分から午後4時
学術文化交流センター 講堂

	名簿あり	名簿無し	合計
一般予約	104	0	104
一般当日	0	17	17
学生一般	24	10	34
学生振替	70	44	114
教職員	3	12	15
不明	0	45	45
合計	201	128	329

コメント オバマ候補とは何か。政党政治はどこに向かうのか。対外対策は変わるのか。この選挙の歴史的意味を考えます。(講師)



平成20年度 愛知県立大学公開講座 実施結果

- 1 講座名 「知の探検」…ソフトウェア、数学、ビジョン
- 2 実施日時 平成20年6月7日(土)・6月14日(土)・6月21日(土)
- 3 実施場所 学術文化交流センター 多目的ホール
- 4 受講申込者 55名
- 5 当日受講申込者 6名
- 6 受講許可者 61名
- 7 受講料徴収者 59名
- 8 修了書授与者 49名
- 9 受講者内訳

年 齢

性 別

年 代	人 数
10代	2
20代	4
30代	5
40代	17
50代	16
60代	7
70代	2
80代	8
合計	61

男性	41
女性	20
未記入	0
合計	61

10 テーマ別受講内容・講師名および受講者数

第1回	内容	講師	受講者数
①	ウェブを支えるソフトウェア	山本 晋一郎 准教授	46
②	身の回りを支えるソフトウェア	粕谷 英人 助教	46
第2回	内容	講師	受講者数
①	能を活性化する数学—統計のウソとホント—	SiSi 准教授	47
②	能を活性化する数学—パズルの数理—	城本 啓介 准教授	47
第3回	内容	講師	受講者数
①	見ることを支える脳の働き	神山 斉己 教授	48
②	映像のメディアを支えるイメージ処理	河中 治樹 助教	48

受講回数別出席回数

	受講許可回数	%
0回	2	3
1回	10	16
2回	16	26
3回	33	52

1.1 概要

本講座では、情報科学部の教員が、「ソフトウェア」「数学」「ビジョン」をテーマに最新学術情報をわかりやすく紹介しながら「知の世界」を探検しました。

第1日目は、ウェブの歴史と未来、検索サイトの仕組み、ブラウザ、セキュリティなど、ウェブを支える技術や、身の回りを支える携帯電話に使われているソフトウェアについて紹介しました。

第2日目は、平均寿命、気温の予測や平年値などの統計的な数値の正しい理解の仕方、数独やラテン方陣をはじめとするパズルについて、解く過程を通して、数学的深層や論理的な展開を紹介しました。

第3日目は、「見る」ことを支える脳の働きをわかりやすく述べ、脳の情報処理の特徴を生かした未来型技術や情報メディアを支える技術としてリアルなCG映像の裏側を紹介しました。



平成20年度 愛知県立大学公開講座 実施結果

- 1 講座名 「世界文学への道案内」
- 2 実施日時 平成20年6月28日(土)・7月5日(土)・7月12日(土)
- 3 実施場所 学術文化交流センター 多目的ホール
- 4 受講申込者 148名
- 5 当日受講申込者 8名
- 6 受講許可者 156名
- 7 受講料徴収者 156名
- 8 修了書授与者 96名
- 9 受講者内訳

年 齢

年 代	人 数
20代	2
30代	3
40代	11
50代	35
60代	47
70代	25
80代	4
未記入	29
合計	156

性 別

男性	79
女性	77
未記入	0
合計	156

10 テーマ別受講内容・講師名および受講者数

第1回	内容	講師	受講者数
①	額田王を天智天皇との万葉歌	遠山 一郎 教授	103
	とはずがたりの世界 —源平合戦・承久の乱後の日記と紀行文—	久富木原 玲 教授	103
第2回	内容	講師	受講者数
①	不思議の国 /鏡の国のアリスは食うか喰われるのか	川端 有子 教授	83
①	女どうしの絆 —アフリカ系アメリカ作家トニ・モリンスの挑戦—	鶴飼 えりか 教授 (悦子)	83
第3回	内容	講師	受講者数

① 悲劇『アンドロマック』—トロイ戦争の伝説—	小柳 公代	教授	98
② 『水滸伝』と『三国志』—毛沢東にとっての延安—	樋泉 克夫	教授	98

受講回数別出席回数

	受講許可回数	%
0回	23	15
1回	37	24
2回	42	27
3回	54	35

1.1 概要

本講座では、よりすぐりの名作をその意義とともに文学史のなかから紹介しました。

第1日目は、日本文学の古典から、『万葉集』と『とほずがたり』に落とされた「いくさ」の影を読み取りました。

第2日目は、ルイス・キャロルとトニ・モリスンという新旧大家の作品から、英米フィクションの新境地を解説しました。

第3日目は、東西の歴史劇から、現在まで愛されるアンドロマックと水滸伝・三国志物の味わい方を伝えました。



平成20年度 愛知県立大学公開講座 実施結果

- 1 講座名 「ヨーロッパ近代への視線」
- 2 実施日時 平成20年11月8日(土)・11月15日(土)・12月22日(土)
- 3 実施場所 学術文化交流センター 多目的ホール
- 4 受講申込者 112名
- 5 当日受講申込者 4名
- 6 受講許可者 116名
- 7 受講料徴収者 91名
- 8 修了書授与者 67名
- 9 受講者内訳

年 齢

年 代	人 数
10代	1
20代	7
30代	7
40代	8
50代	21
60代	34
70代	19
80代	2
未記入	18
合計	116

性 別

男性	61
女性	55
未記入	0
合計	116

10 テーマ別受講内容・講師名および受講者数

第1回	内容	講師	受講者数
①	物語でたどるフランスの子ども史 －17世紀から19世紀－	天野 智恵子 教授	76
②	近代の魔女迫害～女の魔女と男の魔女～	日置 雅子 教授	76
第2回	内容	講師	受講者数
①	スペインの地域多様性とその要因	奥野 良和 准教授	60
②	19世紀イギリスの女性雑誌：イラストレーション と広告	松本 三枝子 教授	60
第3回	内容	講師	受講者数

① 西欧派ドイツ・ナショナリズムと系譜 ーマックス・ヴェーバーと19世紀ドイツー	今野 元 准教授	6 6
② ロシア史における二都物語 ーモスクワとサンクト・ペテルブルクー	加藤 史朗 教授	6 6

受講回数別出席回数

	受講許可回数	%
0回	2 5	2 2
1回	2 6	2 2
2回	2 0	1 7
3回	4 5	3 9

1 1 概要

本講座は、近代ヨーロッパに関する歴史研究に従事する六人の教員を講師に、歴史の学習を通じて現代のよりよい理解を目指しました。

第1日目の前半は、フランスの17世紀から第一次世界大戦までの間に、文学作品などを手がかりに、物語に描かれた「子ども像」の変遷とその背景をたどりました。後半は、ヨーロッパ社会に古くから存在した魔女の大規模な迫害にいたったのかを、大多数の女の魔女ばかりではなく、男の魔女について考察しました。

第2日目の前半は、ヨーロッパ諸国の中でも、言語・文化・政治・経済などの点で、地域的多様性が非常に強い国といわれるスペインの要因について、歴史的な側面から考えました。後半は、19世紀イギリスの女性雑誌や新聞に掲載されたイラストレーションや広告に焦点を絞り、当時の女性を取り巻く政治・社会・文化状況について紹介しました。

第3日目の前半は、社会学者として知られるマックス・ヴェーバーの生涯を振り返りつつ、ドイツの政治的苦悩を歴史的に展望し、現代に通じる諸問題をについて考え、後半はロシア史におけるモスクワとサンクト・ペテルブルクの二都物語について話しました。



平成20年度 愛知県立大学公開講座

今を生きる「知」

- 1 実施日時 11月8日・11月15日・11月22日(土)
- 2 実施場所 名古屋市生涯学習推進センター
- 4 当日受講申込者 1名
- 5 受講許可者 58名
- 6 受講料徴収者 50名
- 7 修了書授与者 41名

8 テーマ別受講内容・講師名および受講者数

第1回	内容	講師	受講者数
①	ついていけない！ ～大きく変貌するしょうがい児者の教育と福祉～	田中 良三 教授	42
②	どうなる？高齢者医療！～迷走する高齢社会における医療をオーストラリアの医療から考える～	木幡 洋子 教授	42
第2回	内容	講師	受講者数
①	文学に描かれたアメリカの人種問題～アフリカ系作家トニ・モリスンの挑戦～	鶴殿 えりか(悦子) 教授	33
②	明治文明開化と現代社会～詩にあらわれた声・宗教・教育をめぐって～	宮崎 真素美 教授	33
第3回	内容	講師	受講者数
①	日本からみたアジア ～メディアが生み出す中国～	樋口 浩造 教授	38
②	南米からみた日本～ペルー・ブラジル両国における日系社会を介して～	川畑 博昭 准教授	38

9 概要

「今」をよりよく生きるため、「文学の視点」、「福祉と教育の視点」、「日本を通して見た世界」という3つの切り口から「今」に通じる「知」を読み解き、一人ひとりが自分の生き方を考えました。

第1日目の前半は、「障害者自立支援法」の導入により、障害者・家族、関係者は大変な負担と苦勞を強いている。はたして日本の障害児者の教育と福祉の将来はあるのかを考えました。後半は、高齢社会の中で健やかに生きていくために、どのような医療福祉が必要なのか、オーストラリアとの比較をしつつ考えました。

第2日目の前半は、アメリカ合衆国の人種差別を主題としているノーベル賞作家トニ・モリスンの文学をとおして、政治的・社会的な課題がいかに関心の内面深くにか

かわっているかを考えました。後半は、明治初期の日本には新しい価値観の流入や生起によって、さまざまな葛藤が生じ、現在社会が今なお抱え続けているものの端緒を、文芸の新ジャンルであった「新大詩」に映し出された表現をとして考察しました。

第3日目の前半は、教員が学外研究で北京に滞在した経験をもとに、報道と国民感情の動きと、具体的なニュースに即しつつ取り上げ、日中双方のナショナリズムの所在を確認し、それを超えていく方途を考えました。後半は、南米と日本を架橋する歴「日系社会」を「国境（くにざかい）」と捉え、「外国からみた日本」を理解する手がかりとして考察しました。



4. 7 シンポジウム

「小中学校・地域と大学との教育連携 ～スクールボランティアを通して～」 実施結果

- 1 日時 平成20年10月30日（木） 13時30分～16時30分
- 2 場所 愛知県大学学術文化交流センター
- 3 概要

愛知県内での大学で学ぶ学生たちは、近隣の市町村の小中学校のスクールボランティアとして、発達障害児への教育支援、外国籍児童生徒への学習支援、小学校英語支援に関わって活動しています。シンポジウムでは、小中学校・地域の特別な教育的ニーズを把握し、大学教育の課題を明らかにします。

3 プログラム

■全体会 13時30分～14時25分

- ・主催者挨拶 佐々木 雄太（愛知県立大学長）
- ・基調提言1 田中 良三（愛知県立大学文学部児童教育学科教授）

「小中学校・地域と大学との教育連携～スクールボランティアを通して～」

- ・基調提言2 宇野 成佳（愛知県教育委員会特別支援教育課主査）
「愛知県におけるスクールボランティアへのニーズと今後」



■分科会 14時40分～16時30分

① 発達障害児への教育支援

コーディネータ

田中 良三（愛知県立大学文学部児童教育学科教授）

話題提供

藤井 安規（瀬戸市教育委員会指導主事）

石田 真利子（半田市特別支援教育指導員）

山本 理絵（愛知県立大学文学部児童教育学科准教授）

学生ボランティア報告

鈴木 ひろみ（愛知県立大学文学部児童教育学科4年）

村越 もなみ（愛知県立大学文学部児童教育学科4年）

② 外国籍児童・生徒への教育支援

コーディネータ

宮谷 敦美（愛知県立大学外国語学部日本語教員課程准教授）

話題提供

田中 敬一（愛知県立大学外国語学部スペイン学科教授）

東 弘子（愛知県立大学外国語学部日本語教員課程准教授）

加藤 正彦（瀬戸市立光陵中学校教頭）

澁谷 光之（豊田市立西保見小学校教務主任）

学生ボランティア報告

小谷 貴美子（愛知県立大学外国語学部フランス学科4年）

桑原 知恵（愛知県立大学外国語学部スペイン学科4年）

青木 沙恵子（愛知県立大学外国語学部スペイン学科2年）

波多野 真帆（愛知県立大学外国語学部スペイン学科2年）

③ 小学校英語活動支援

コーディネータ

池田 周（愛知県立大学文学部英文学科准教授）

話題提供

中村 要一（長久手町立南小学校校長）

苫谷 チアキ（長久手町立南小学校保護者・地域ボランティア）

片岡 有紀子（長久手町立南小学校保護者・地域ボランティア）

学生ボランティア報告

及川 円佳（愛知県立大学文学部英米学科4年）

政丸 崇（愛知県立大学文学部英文学科4年）

愛知県立大学学生自主企画研究「小学校外国語活動」グループ

4 参加人数 206名

5 コメント

活動報告が中心に行われ、現状課題については議論が活発に行われました。また終了後には、交流会を実施しました。



4. 8 研究会

教員の地域連携活動を活性化することを目的に3つの研究会（公共政策研究会、環境共生研究会、文理連携研究会）を設置しました。

公共政策研究会

公共団体の審議会など委員や公共政策に関わる研究分野の教員から構成される。実務と学問を架橋し、本学からの公共政策提言をめざす。

■第1回公共政策研究会・多文化共生研究所合同研究会

1 日時 平成20年6月25日（水） 16時～18時

2 場所 愛知県大学東講義棟H309教室

3 プログラム

地域連携センター長あいさつ（安川 博）

多文化共生研究所長あいさつ（稲村 哲也）



研究および活動の事例報告（座長 大野 誠）

- (1) 須藤八千代「サイエンスショップにおける臨床研究の可能性」
- (2) 山本かほり、松宮朝「多文化共生に向けての住民意識と自治体の施策の現状」
- (3) 藤田博仁「ホームレス自立支援事業をめぐる愛知県及び名古屋市とのかかわり」
- (4) 稲村哲也「生物・文化多様性と愛・地球博記念公園公園マネジメント会議の活動」
- (5) 杉山三郎「メキシコ古代遺跡テオティワカン発掘概要」
- (6) 吉川雅博「失語症者個人支援（サポーター）の制度化に向けて」

4 参加人数 23名（報告者含む）

5 コメント

活動報告が中心に行われ、現状課題については議論が活発に行われました。また研究会終了後には、交流会を実施しました。

■ 緊急ミニ・シンポジウム「いま、在日ブラジル人、ペルー人に何が起きているか」 ～雇用・教育の危機とラテン・コミュニティの崩壊～

1 日時 平成21年2月20日（金）10時30分から12時30分

2 場所 愛知県立大学外国語学部棟E201教室

3 主催 「多文化共生に資する特定領域スペイン語&ポルトガル語教育のための基礎研究II」共同研究グループ

共催 愛知県立大学地域連携センター公共政策研究会、

愛知県立大学多文化共生研究所

4 報告者

松本雅美 学校法人ムンド・デ・アレグリア学校理事長・校長

原田篤実 株式会社リベルタ代表取締役

伊東浄江 NPO 法人トルシーダ代表

コメンテーター

松宮 朝 (愛知県立大学社会福祉学科准教授)

5 内容

昨年秋以降の急激な経済悪化は、東海地方で暮らすブラジル人、ペルー人に深刻な事態を引き起こしています。この影響の深刻さを教育と雇用の現場で直接見ている3名の関係者を招き、現状報告と質疑を行った。

6 参加人数 30人

7 コメント

在日ブラジル人、ペルー人求職者のほとんどが非正規労働者製造業派遣である。雇用が減って失業した後に、再就職できる割合は2割程度である。現在失業中の人々が9万~11万人いるとみられ、その内2万人は帰国を余儀なくされている状況である。このような深刻な状況に対して、現場を知る3名の関係者の報告を聞くとともに、取り組むべき対策について話し合いました。

環境共生研究会

環境共生と関係のある分野（理系・文系）の教員が集い、相互理解を深め、共同研究、地域連携活動を推進する。

■ 研究会「環境との共生を考える」

ー愛知県立大学・環境フォーラム2008

「生物多様性及びCOP10開催にむけての実践と大学の役割ー

1 日時 平成20年10月31日（金）

2 場所 愛知県立大学学術文化交流センター 小ホール

3 主催 愛知県立大学地域連携センター・情報科学共同研究所・多文化共生研究所

4 概要 2010年に名古屋で開催されるCOP10に向けて、生物多様性とは何かを生物学の視点から概説すると共に、生物多様性と文化の関わりを文化人類学の視点から論じます。また、愛・地球博記念公園マネジメント会議に所属する2つのNPO団体のリーダーが、環境保全と環境教育に関する、これまでと今後の具体的な活動について報告します。

5 プログラム

研究発表

◆ 「海洋生物の多様性とその保全」

横田 幸雄 (愛知県立大学情報科学部地域情報科学科教授)

◆ 「環境保全と環境教育に関する実践的活動のこれまでと今後」

篠田 陽作 氏 (愛知県立大学非常勤講師・NPO ネイチャークラブ東海理事長)

◆ 「子供たちと啓発活動 日本のどんぐりと沙漠のモンゴリ」

角和 保明 氏 (NPO どんぐりモンゴリ理事長)

◆ 「アンデスにおける環境と文化、及び愛・地球博記念公園・公園マネジメント会議の活動」

稲村 哲也 (愛知県立大学文学部日本文化学科教授)

6 参加人数 31名 (一般 16名、学生 15名)



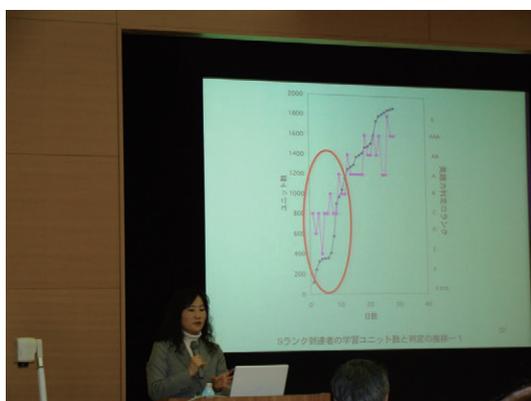
7 コメント

「環境との共生」について、科学的な視点、文化的な視点、さまざまな視点から考えました。本研究会は、EXPO エコマナーの環境学習としても実施され、受講者には EXPO エコマナー1ポイントを与えました。

文理連携研究会

文系・理系の壁を越え、教員の相互理解を高め、文理融合型の研究、異なる分野の領域横断的な研究を推進する。

■ 講演 「ICT を活用した英語教育—Nintendo DS と e-Learning」



1 日時 平成21年1月28日(水) 15:00~17:00

- 2 場所 愛知県立大学学術文化交流センター 小ホール
- 3 主催 地域連携センター文理連携研究会、高等言語教育研究所、
情報科学共同研究所
- 4 講演概要 英語教育に e-Learning を導入することによって、学生個人のニーズにあった学習環境を提供することが可能となる。教育効果をあげるには、
e-Learning を講義とうまく連携させて、学生へコーチングを行うことが鍵といえるだろう。講演では、大阪電気通信大学での ICT (Information and Communication Technology) を活用した英語教育の具体的な事例を報告するとともに、Nintendo DS を用いた新しい英語教育の試みについて紹介する。
- 5 参加人数 24名
- 6 コメント

Nintendo DS を用いた英語教育に参加する学生のうち、英語力をアップさせた学生の多くは、期間内に平均的な学習量の学生に比べて、短期間に多くの問題をこなした学生であったことを紹介していただきました。

4. 9 学術文化交流センターの管理・運営

学術文化交流センター利用状況（平成20年度）

		目的別利用回数						施設別小計
		公開講座 ①	学術講演会 ②	外部資金 講演会等	学会 ④	学生利用 ⑤	その他 ⑥	
施設別 利用 回数	講堂		1	1	8	12	17	39
	小ホール			5	20	5	42	72
	文化交流室A			3	16		66	85
	文化交流室B			2	13	4	70	89
	多目的ホール	9	1	2	16	10	87	125
	和室			4	9	4	13	30
	目的別小計	9	2	82	35	16	296	440

注

1、一つの目的につき複数日利用の場合は、複数をカウントした。

2、一つの目的につき複数施設利用の場合は、複数をカウントした。

備考

目的別利用のうち、①から⑤については、所定の利用届が提出されており、その内訳は別紙のとおりである。その他⑥の利用内訳は、利用届が出されている別記以外は緊急又は臨時的な会議等である。授業はその他⑥にカウントした。

4. 10 広報活動

地域連携センターの広報項目

手段 名称等	マスコミ	情報誌	ポスター	チラシ	大学広報誌	大学ホームページ	郵送	電子メール	その他
【学術講演会】									
がん早期発見のためのコンピュータ支援画像診断最前線			○	○		○		○	○
アメリカ大統領選挙と今後の国際関係	○		○	○		○		○	○
【公開講座】									
『知の探究』・・・ソフトウェア、数学、ビジョン			○	○		○		○	○
世界文学への道案内			○	○		○		○	○
ヨーロッパ近代への視線			○	○		○		○	○
今を生きる『知』			○	○		○		○	○
【シンポジウム・フォーラム等】									
シンポジウム「小中学校・地域と大学との教育連携～スクールボランティアを通して～」			○	○		○			
研究会「自然との共生を考える」	○		○	○		○		○	
中部の明日を考える連続講演会	○		○	○		○		○	
あいち地域づくり実践講座	○		○	○		○		○	
第2回人と自然の共生国際フォーラム	○		○	○		○		○	
情報科学研究交流会	○		○	○		○		○	
フロンティア21エレクトロニクスショー2008	○		○	○		○		○	
大学知財セミナー			○	○		○		○	

※その他 まなびネットあいち

参考資料：P. 111～P. 125

5 産学連携推進室

5 産学連携推進室

5. 1 要綱

愛知県立大学産学連携推進室要綱

(趣旨)

第1 この要綱は、愛知県立大学地域連携センター規程第8条第2項に基づき、地域連携センター（以下「センター」という。）に設置する産学連携推進室（以下「推進室」という。）について、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2 推進室は、産学連携活動を円滑かつ組織的に推進することを目的とする。

(業務)

第3 推進室は、その目的を達成するために、次に掲げる業務を行う。

- (1) 産学連携を推進する事業の企画・実施及び広報
- (2) 共同研究等の窓口業務
- (3) 知的財産に関する支援業務
- (4) その他室長が必要と認める業務

(組織)

第4 推進室は、次の者をもって組織する。

- (1) 室長
- (2) 地域連携センター長補佐
- (3) 情報科学部選出教員
- (4) 地域連携センター長が指名する事務職員
- (5) 連携推進委員会が必要と認めた者

2 室長は、地域連携センター長をもって充てる。

(庶務)

第5 推進室の庶務は、管理課の協力を得て学務課が担当する。

附 則

この要綱は、平成20年1月22日から施行する。

5. 2 構成員

所 属	平成20年度構成員
室長(地域連携センター長)	安 川 博
地域連携センター長補佐	小 池 康 弘
地域連携センター長補佐	松 宮 朝
情報科学部選出教員	小 栗 宏 次
情報科学部選出教員	神 山 斉 己
事務職員	村 瀬 幸 恵
事務職員	安 藤 章 二
事務職員	林 英 文

5. 3 知的財産セミナー

中部経済産業局主催大学知財セミナー 実施結果

第1回 テーマ「知的財産制度と特許明細書の書き方」

開催日時 2008年11月11日(火) 14:00-16:00

会場 愛知県立大学学術文化交流センター 文化交流室A

講演 知的財産制度と特許明細書の書き方

講師 小林 かおる氏

(アンダンテ特許事務所 弁理士)



参加者

区分	人数	所属
教員	3	愛知県立大学
学生	14	愛知県立大学情報科学部・情報科学研究科
職員	18	愛知県立大学
計	35	

第2回 テーマ「名古屋市立大学の知的財産管理と産学連携の実例紹介」

開催日時 2008年12月5日(火) 14:00-16:00

会場 愛知県立大学学術文化交流センター 文化交流室A

第1部

講演 名古屋市立大学における産学官連携への取組み

講師 林 泰司氏

名古屋市立大学産学官・地域連携センター

(事務局学術推進室)



第2部

講演 大学における産学官連携、知的財産管理体制構築の現状と課題

講師 宇都宮 洋一氏

(名古屋市立大学産学官・地域連携センター顧問、大学知的財産アドバイザー)

5 参加者

区 分	人数	所 属	人数
教 員	6	愛知県立大学	4
		愛知県立看護大学	2
学 生	1	愛知県立大学情報科学研究科	1
事務職員	14	愛知県立大学	13
		愛知県立看護大学	1
計	21		

5. 4 共同研究・受託研究等

共同研究

氏 名	研 究 課 題	研究依頼元
井手口哲夫	光ネットワーク通信方式に関する研究	三菱電機株式会社情報技術総合研究所
小栗 宏次	意図推定アルゴリズムに関する研究	株式会社東海理化電機製作所
	ITS の発展に関する研究	株式会社デンソー
	生体情報駆動型フィードバックシステムのための要素技術基礎研究	株式会社トヨタ I T 開発センター
	ポジションフリーの身体活動計測に関する研究	株式会社スズケン
神山 斉己	Visiome Platform の継続開発・運用とコンテンツ収集と登録	独立行政法人理化学研究所
	脳・神経数理モデルシミュレーション プラットフォームの整備	独立行政法人理化学研究所
村上 和人	画像処理による人体検出システム (2)	株式会社マキタ

受託研究

氏 名	研 究 課 題	研究依頼元
村上 和人	画像処理による人体検出システムの研究・開発	(株)マキタ

奨学寄付金

氏名	研究課題	研究依頼元
小栗 宏次	情報通信技術の発展に関する研究	西日本電信電話株式会社
城本 啓介	多色2次元バーコード構成に適した誤り訂正符号の考案	財団法人堀情報科学振興財団
永井 昌寛	住民のQOL向上のための保健・医療・福祉包括ケアシステムの構築と評価に関する研究	財団法人日比科学技術振興財団
村上 和人	画像認識による誘導システムに関する研究（その3）	株式会社シンテックホズミ
安川 博	信号処理応用に関する研究	名古屋電機工業株式会社
	デジタル信号処理と通信ネットワークに関する研究	矢崎総業株式会社

その他

氏名	研究課題	助成元
山本 晋一郎	先導的ITスペシャリスト育成推進プログラム	文部科学省
何 立風	バーチャル軟組織レントゲン画像の自動生成に関する研究	財団法人 豊秋奨学金
	ニューラルネットワークとファジー推論を用いた品質低下文字画像の2値化に関する研究	研究分担： 人工知能振興財団
横田 幸雄	2国間セミナー（日伊共同セミナー）海洋生物に対する物理・化学的インパクトの影響 -持続可能性とポストゲノムを目指して-	日本学術振興会
	国際研究集会 “海洋生物に対する物理・化学的インパクトの影響 -持続可能性とポストゲノムを目指して-	大幸財団
奥田 隆史	放送・通信連動により生じる通信輻輳発生予測に関する研究-マルチエージェントアプローチによる	電気通信普及財団研究助成（2007年度）

（出所： 愛知県立大学情報科学部 情報科学研究科 年報 2008年）

6 この一年を振り返って

地域連携センター長補佐としての1年

地域連携センター長補佐 小池康弘

1年間、微力ではあるが地域連携センター長補佐としてその任にあたることができたのは、私にとって大変光栄であり、またラッキーなことであった。本学の中期計画の中でも地域連携は重要な課題であり、仕事は予想以上に大変であったが、安川センター長のリーダーシップの下、松宮センター長補佐と適宜役割を分担し、有能な担当事務職員に日常業務を完璧にフォローしていただいたので、チームとして良い仕事ができただろうかと思う。様々な場面で助けていただいた関係者に、この場を借りて心から感謝の意を表したい。

今年度はセンター発足から2年目にあたり、様々な事業が動き出したこともあって、センターの仕事量は加速度的に増え、率直に言って本来のキャパシティを超える部分もあった。瀬戸市や長久手町などでの「スクール・ボランティア」事業をはじめとする教育連携、県との共催事業、公開講座、新・県大ファンフェアレ、学内研究会（公共政策、文理連携、環境共生）や様々なシンポジウムの開催と共催、産学連携にむけた検討等々、次から次へと案件が上がり、センター運営会議は年間30回以上に達した。こうした中で「スクール・ボランティア事業」については、21年度から学生支援センターに移管されることになったが、これは適切な判断だと思う。さらに、私見ではあるが「文理連携研究会」を教育研究センターに移管した方がいいのではないかと。これは「地域連携センターの仕事が減らしたい」という理由からではなく、適材適所、戦力の最適配置という視点からの提案である。次年度の検討課題としていただければ幸いである。

ところで、大学の地域連携は、それ自体が目的なのではない。誤解を恐れず言えば、地域連携のために大学があるのではない。「社会あつての大学」であることは当然のことだが、まず、どのような大学づくりを目指すのかというビジョンがあり、そのためにどのような研究・教育の展開があるかという設計図が描かれる。その中で、どの部分にどのような素材、資源を使うのが効果的か、誰と協働するのが効果的か、どのような形で効果的に社会に還元できるかを考える。これが大学の地域連携、地域貢献のポイントではないかと思う。

投入できる資源が有限である以上、地域社会のあらゆる要請に応えることはできない。中長期的に大学が目指す方向性の中で、また、限られた人員、予算、時間の中で、何を選択し、どのように人員を配置して、経営資源や知的資源を投入すべきかを慎重に検討する必要がある。大学として対応すべきことと、個々の教員（ないし教員集団）レベルで対応をお願いした方がいいことの峻別も必要だ。事業の質を維持し、高めていくためには、スタッフのモチベーションを維持し、高めていくことが不可欠であり、燃え尽きてしまうようなことがあってはならない。そうした配慮も「持続可能な地域連携、地域貢献」につながっていくものと思う。

地域連携センター長補佐としての1年

地域連携センター長補佐 松宮 朝

愛知県立大学の地域連携・地域貢献は、研究・教育とならぶ第3の柱として位置づけられている（稲村，2008:7）。ここからも、地域連携・地域貢献の重要性は明らかであるが、その評価のポイントとなるのは、地域でのニーズと大学での教育・研究をどのように結び付けるのかという点にあると思われる。地域連携センターが、この課題にどのようにこたえてきたのか、この一年の動きを振り返りつつ検討してみたい。

まず、地域のニーズとはどのようなものか。ここで少し古いデータになるが、愛知県立大学地域連携準備室（当時）が2006年度に実施した長久手町住民調査の自由回答（愛知県立大学地域連携センター・松宮朝・井戸聡編，2007:53-54）から大きく2点に整理した上で、地域連携センターとしての取り組みをまとめておこう。

①「長久手の小中学校に学生が行き、一緒にボランティアや体験授業をしてもいいのではないか。」→スクール・ボランティア

②「県大へは、地域住民と一体となり、誰もが気軽に大学へ出向いて、学習や交流の場を作ってもらいたい。」「公開講座等の拡充を。」「県立大学は近くにあるので、市民参加が出来るよう楽しいイベントがあれば楽しみ。」→公開講座、新・県大ファンファーレ

①のスクール・ボランティアについては長久手町に加え、瀬戸市とも協定を締結し、新たな展開につなげることができたと思われる。特に外国籍児童・生徒に対する教育支援に大きな力を発揮した。もっとも、書類等の翻訳や通訳など、スクール・ボランティアという形で実施すべきことかどうかなど、その内容については議論の余地があるだろう。来年度は、地域連携センターから教職支援室に引き継がれるが、「ボランティアとしてのかかわり方」については明確にしていく必要があるだろう。

次に、②の大学での教育・研究の成果を公開する点については、従来の公開講座だけでなく、新・県大ファンファーレによって、より多くの方々に参加いただくことができた。

このような地域貢献・地域連携については「互酬性の原則」（角，2004:35）が要求される。ここでいう「互酬性の原則」とは、①地域住民の生活の豊富化に寄与する、②学生教育の一環となる、③研究者としての研究の一環となるという3点である。①地域のニーズにこたえるという前提の中で、②ボランティアが学生の教育効果につながるのか、③地域のニーズと研究の有機的連関につながっているかというチェックが不可欠と思われる。

個人的には、この一年、十分に貢献することが出来なかったという反省の気持ちが強いが、来年度もより一層の地域連携・地域貢献の取り組みに励むことにしたい。

<文献>

愛知県立大学地域連携センター・松宮朝・井戸聡編，2007、『「万博」の訪れと長久手』。

稲村哲也，2008，「地域連携センター設立までの経緯」『愛知県立大学地域連携センター年報』1:3-17。

角一典，2004，「地域と大学との連携に関する試論」『旭川実践教育研究』8:33-40。

7 參考資料

学術文化交流センター利用内訳資料

学術文化交流センター 利用の内訳（平成20年度）

公開講座

日時	利用目的	課室・学部	利用施設
H20/6/7	「知の探検」 ①ウェブを支えるソフトウェア ②身の回りを支えるソフトウェア	学務課	多目的ホール
H20/6/14	「知の探検」 ① 脳を活性化する数学 —統計のウソとホント— ②脳を活性化する数学 —パズルの数理—	学務課	多目的ホール
H20/6/21	「知の探検」 ①見ることを支える脳の動き ②映像メディアを支えるイメージ処理	学務課	多目的ホール
H20/6/28	「世界文学への道案内」 ①額田王と天智天皇との万葉歌 ②とはずがたりの世界—源平合戦・承久の乱後の日記と紀行文—	学務課	多目的ホール
H20/7/5	「世界文学への道案内」 ①不思議の国/鏡の中のアリスは食うのか喰われるのか？ ②女どうしの絆—アフリカ系アメリカ作家トニ・モリスンの挑戦—	学務課	多目的ホール
H20/7/12	「世界文学への道案内」 ①悲劇「アンドロマック」—トロイ戦争の伝説— ②「水滸伝」と「三国志」—毛沢東にとっての延安—	学務課	多目的ホール
H20/11/8	①物語でたどるフランスの子ども史—17世紀から19世紀 ②近代の魔女迫害—女の魔女と男の魔	学務課	多目的ホール

	女		
H20/11/15	①スペインの地域的多様性とその要因 ②19世紀イギリスの女性雑誌：イラストレーションと広告	学務課	多目的ホール
H20/11/22	①西欧派ドイツ・ナショナリズムの系譜—マックス・ヴェーバーと19世紀ドイツ ②ロシア史における二都物語—モスクワとサンクト・ペテルブルク	学務課	多目的ホール

学術講演会

日時	利用目的	課室・学部	利用施設
H20/10/15	「がん早期発見のためのコンピュータ支援画像診断最前線」	学務課	多目的ホール
H20/11/4	「アメリカ大統領選挙と今後の国際関係」	学務課	講堂

学会・講演会・シンポジウム等

日時	利用目的	課室・学部	利用施設
H20/4/25	特別講演会（ヨーロッパのIT事情と国際インターンシップについて）	情報科学部	小ホール
H20/5/28	愛知県立大学および愛知県立大学英文会共催学術講演会 ”What we can learn from historical sociolinguistics”（ヘルシンキ大学教授 Terttu A. Nevalainen）	文学部 英文学科	多目的ホール
H20/5/28	学生自主企画研究公開ヒアリング	学務課	小ホール 文化交流室 A
H20/6/25	人と自然の共生国際フォーラム	あいち海上の森センター	講堂 和室 文化交流室 B
H20/7/13	「あいち海上の森大学」開講式及び記念講演会開催	あいち海上の森センター	多目的ホール 和室
H20/7/13	生涯発達研究施設 研修交流事業公開シンポジウム	文学部	小ホール 文化交流室 A

H20/7/28・29・30	佐々木学長の講演会(県立大学プロジェクトキックオフ講演会)	学術情報課	多目的ホール
H20/8/5	バージニア州立 ラドフォード大学 英語学科 ドン・カニングハム博士 の講演会	情報科学部 地域情報学科	小ホール
H20/8/7	第一回 愛知県立大学 言語教育研究会	外国語学部 スペイン学科	小ホール
H20/10/4	シンポジウム「ヨーロッパのナヨナリティとテリトリアリティ」	外国語学部 スペイン学科	小ホール
H20/10/11	ロシア史研究会 2008 年度大会開催	ロシア史研究会	多目的ホール 小ホール 文化交流室 A・B 和室
H20/10/18	生涯発達研究施設 研修交流事業・公開シンポジウム「社会的ひきこもり」を問い直すⅦ	文学部	小ホール 文化交流室 A
H20/10/28	情報科学部 10 周年記念講演会	情報科学部	講堂 文化交流室 A・B
H20/10/28	研究会「環境との共生を考える」	学務課	小ホール
H20/10/8・24・29 11/25	中部の明日を考える連続講演会	学務課	講堂 多目的ホール 文化交流室 AB
H20/10/30	シンポジウム「小中学校・地域と大学との教育連携～スクールボランティアを通して」	学務課	多目的ホール 文化交流室 A・B
H20/10/30	言語教育研究会	高等言語教育研究所	小ホール
H20/10/31	講演会「ガン医療における看護専門職への期待」	学務課	多目的ホール
H20/11/2	多言語競演レシテーション大会	高等言語教育研究所	小ホール
H20/11/5	情報科学研究交流会記念講会	情報課学部	小ホール
H20/11/11・12/5	大学知財セミナー開催	学務課	文化交流室 A・B
H20/11/12・26 12/3	あいち地域づくり実践講座	学務課	多目的ホール 小ホール 文化交流室 A・B 和室

H20/11/11	医療福祉論・特別公開授業～シリーズいのち 第2回～	文学部 社会福祉学科	小ホール 文化交流室 B
H20/11/29	シンポジウム 「平曲譜本の世界」	文学部 国文学科	講堂
H20/12/10	講演会 『本屋さん』のお仕事 (『本』のお仕事シリーズ第2弾)	文学部 児童教育学科	小ホール
H21/1/13	医療福祉論・特別公開授業～シリーズいのち 第3回～	文学部 社会福祉学科	小ホール 文化交流室 A
H21/1/28	文理連携研究会「講演 ICT を活用した英語教育—Nintendo DS と e-Learning	学務課	小ホール
H21/1/29	愛知県が主催する講演会「化学物質適正管理セミナー」	環境部環境活動推進課	講堂
H21/1/31	国際シンポジウム開催	文学部 社会福祉学科	小ホール 和室
H21/2/17	理事長特別教員研究費 発表会	法人本部経営財務課	多目的ホール 和室

学生利用

日時	利用目的	課室・学部	利用施設
H20/6/28・29	第60回キッズパーク開催	文学部 児童教育学科	多目的ホール ホワイエ
H20/9/17・29 10/1	講堂の下見	県大祭実行委員会	講堂
H20/10/15	県大祭芸能人企画の打ち合わせ	県大祭実行委員会	講堂
H20/10/29	学生自主企画研究中間発表会	学務課	小ホール
H20/10/30・31 11/1・2	大学祭	県大祭実行委員会	地下1階ラウンジ 小ホール 文化交流室 B 講堂 和室
H20/12/13・14	第61回キッズパーク開催	文学部 児童教育学科	多目的ホール 講堂 ホワイエ
H21/1/20・21	学生自主企画研究中間発表会	学務課	多目的ホール

授業

日時	利用目的	課室・学部	利用施設
H20/5/13	愛知県立大学国文学会 総会 卒業論文発表会・講演会	文学部 国文学科	講堂 多目的ホール 和室 文化交流室 B
H20/7/29	講義（言語研究入門）	外国語学部	多目的ホール
H20/10/6	情報科学部卒業論文中間発表会	情報科学部	小ホール 文化交流室 A
H20/11/5	情報科学研究交流会	情報科学部	多目的ホール
H20/12/11	大学院情報科学研究科修士論文中間発表会	情報科学部	多目的ホール
H20/12/22	特殊講義（メディア情報システム論）	情報科学部	小ホール
H21/1/26	外部講師を招いた特別講座	情報課学部 情報システム学科	小ホール
H21/2/16	情報科学部卒業研究発表会	情報科学部	多目的ホール 小ホール
H21/1/28	メディア情報システム論	情報科学部	小ホール
H21/2/2	特別講義	情報科学部	小ホール
H21/2/19	大学院情報科学研究科修士論文発表会 及び情報科学部卒業研究再発表会	情報科学部	多目的ホール

その他の利用

日時	利用目的	課室・学部	利用施設
H20/4/25	大学訪問者に対するガイダンス(岐阜県立可児高等学校)	学務課	文化交流室 A
H20/4/2	新入生向けナビゲーション・セミナー会場としての利用	愛知県立大学生生活 協同組合	多目的ホール
H20/4/9	新入生歓迎企画 ウェルカムパーティー	愛知県立大学生生活 協同組合	多目的ホール
H20/4/19	スペイン学科新入生研修	外国語学部スピー	小ホール

		ン学科	
H20/4/10・24	セキュリティ及びメールマナー講習会の開催	学術情報センター	多目的ホール
H20/4/23	職場研修	法人本部総務課	小ホール
H20/4/28・29・30 5/1・28・29 7/6・7・8・9・10・ 11	ロボカップシステムの動作確認実験	情報科学部	多目的ホール
H20/5/13	理事長特別教員研究費 発表会	愛知県公立大学法人経営財務課	小ホール
H20/5/14	企画事業（「公共図書館司書のお仕事 with ブックトーク」）の開催	学術情報センター	2階小ホール
H20/5/27	地域連携センターの紹介（県地域振興部地域政策課内の部内研修の一環）	学務課	小ホール
H20/5/27	県立大学新講義棟増築工事入札会場	法人本部総務課庶務グループ	小ホール
H20/5/29	大学訪問者に対するガイダンス（愛知県立新城東高等学校）	学務課 入試広報室	文化交流室 A
H20/5/30	愛・地球博記念公園 公園マネジメント会議 第4回準備会 会議開催	愛知県建設部 公園緑地課	多目的ホール
H20/5/30	大学訪問者に対するガイダンス（愛知県立尾北高等学校）	学務課 入試広報室	文化交流室 A
H20/6/4	第1回新講義棟増築工事打合せ会	法人本部 総務課	文化交流室 A
H20/6/4	組合大会	愛知県立大学教職員組合	学術交流センター
H20/6/7	日本児童文学学会中部例会開催	文学部 児童教育学科	文化交流室 B 和室
H20/6/9	大学訪問者に対するガイダンス準備(岐阜県立長良高等学校)	学務課 入試広報室	講堂
H20/6/10	大学訪問者に対するガイダンス(岐阜県立長良高等学校)	学務課 入試広報室	講堂
H20/6/11・13 10/7・14	ICT能力向上研修(課題研修)の開催	情報科学部	多目的ホール 小ホール 文 文化交流室 A・B

			和室
H20/6/16・18	大学訪問者に対するガイダンス(岐阜県立大垣南高等学校)	学務課 入試広報室	多目的ホール 文化交流室 A
H20/6/25	大学訪問者に対するガイダンス(愛知県立常滑高等学校)	学務課 入試広報室	多目的ホール
H20/6/25	精神保健に関する研修会	学務課	文化交流室 A
H20/6/26	大学訪問者に対するガイダンス(愛知県立一宮西高等学校)	学務課 入試広報室	多目的ホール
H20/6/27・30	入札会場	法人本部総務課	文化交流室 B
H20/6/30	拡大教科書情報提供説明会	愛知県立芸術大学 美術学部	文化交流室 A
H20/7/2	救命救急講習会(AED)の実施	学務課 学生支援 グループ	多目的ホール
H20/7/5	生物多様性科学研究会 第4回研究会	情報科学部 地域 情報学科	小ホール
H20/7/9	大学訪問者に対するガイダンス(愛知県立成章高等学校)	学務課 入試広報室	多目的ホール
H20/7/16	オープンキャンパス説明会	学務課 入試広報室	文化交流室 B
H20/7/18	スクールボランティア研修講座 (I)	文学部	文化交流室 B 多目的ホール
H20/7/29	大学事務局グループ長向け ケーススタディ研修	経営財務課	文化交流室 A
H20/7/31	大学訪問者に対するガイダンス(愛知県立東海南高等学校)	学務課 入試広報室	文化交流室 A
H20/8/4・5・6	オープンキャンパス封入準備・作業	学務課 入試広報室	文化交流室 B
H20/8/7・8・11・12	オープンキャンパス	学務課 入試広報室	講堂 多目的 ホール 小ホ ール文化交 流室 A.B
H20/8/26	看護大学オープンキャンパス見学ツアー	学務課 入試広報室	多目的ホール
H20/9/4	大学訪問者に対するガイダンス(愛知工業大学名電高等学校)	学務課 入試広報室	文化交流室 A
H20/9/5	大学訪問者に対するガイダンス(三重県)	学務課 入試広報室	文化交流室 A

	立津西高等学校)		
H20/9/16・17	職員採用試験	法人本部 総務課	文化交流室 A・B
H20/9/29・30	平成 20 年度 9 月愛知県立大学卒業式・大学院学位授与式及び準備	学務課 学生支援グループ	多目的ホール
H20/9/30	大学訪問者に対するガイダンス(長野県飯田風越高等学校)	学務課 入試広報室	小ホール
H20/9/25・26 10/21・22	財政的援助団体等監査受検及びその準備	愛知県公立大学法人本部監査室	多目的ホール 文化交流室 A
H20/10/7	医療分野ポルトガルスペイン語講座の TA オリエンテーションの実施	学務課	文化交流室 B
H20/10/10	入札会場	法人本部総務課	文化交流室 A
H20/10/10	第 2 回リニモ沿線地域づくり構想策定委員会の開催	愛知県地域振興部 地域政策課	多目的ホール
H20/10/8・15	一般職員健康診断	愛知県公立大学法人部 総務課	多目的ホール 和室 文化交流室 B
H20/10/22	新・県大ファンファーレ オープニングリハーサル	学務課	講堂
H20/10/29	新・県大ファンファーレのオープニングセレモニー	管理課	講堂 控え室 3 室 文化交流室 A
H20/10/31	研究会「環境との共生を考える」	学務課	小ホール
H20/11/1	講演会 鳥越俊太郎講演会	管理課	講堂
H20/11/4	対談 大地の子	管理課	講堂
H20/10/9・16・23・31 11/1・6・13・20・27 12/4・11・18	医療分野ポルトガル語スペイン語講座	学務課	多目的ホール 文化交流室 A・B 小ホール

H21/1/15・22・29			
H20/11/1・2	高校生のための入学相談コーナー（県大大公開企画）	学務課 入試広報室	文化交流室 A・B
H20/11/21 12/10・12	入札会場	法人本部 総務課	文化交流室 B
H20/11/21	愛・地域博記念講演 公園マネジメント会議 第7回準備会 会議開催	愛知県建設部 公園緑地課	多目的ホール
H20/11/28	学術情報センター図書館概要説明	学術情報課	文化交流室 A
H20/11/28・29・30 12/1	環境にやさしい交通を考える市民フォーラム in なごや(共催)	学務課	小ホール 多目的ホール 和室 文化交流室 A・B
H20/11/15	人と自然の共生国際フォーラムの関係者の控室	人と自然の共生国際フォーラム実行委員会	講堂 和室 文化交流室 B
H20/12/9	入札会場	法人本部総務課	文化交流課 B
H20/12/16・17	平成 21 年度入学者選抜大学入試センター試験説明会及びその準備	学務課 入試広報室	多目的ホール
H20/12/26	仕事納め式	管理課	多目的ホール
H20/12/26	入札会場	法人本部総務課	文化交流課 B
H21/1/3・4	平成 21 年度入学者選抜大学入試センター試験チャイムテスト	学務課 入試広報室	多目的ホール 文化交流室 A・B
H21/1/5	仕事始め式	管理課	多目的ホール
H21/1/14	入札会場	法人本部総務課	文化交流課 B
H21/1/16	平成 21 年度入学者選抜大学入学試験センター試験チャイムテスト	学務課 入試広報室	多目的ホール 文化交流室 A・B
H21/1/17・18	平成 21 年度入学者選抜大学入学試験センター試験	学務課 入試広報室	多目的ホール 文化交流室 A・B
H21/1/19	平成 20 年度愛知県地域づくり団体研修交流会の開催	愛知県地域振興部 地域政策課	多目的ホール 文化交流室 B
H21/1/23	学生自主企画研究 研究発表会	学務課	多目的ホール

H21/1/30	契約職員面接	法人本部総務課	文化交流室 B 和室
H21/1/30	県立看護大学実習室改修他工事入札会場	法人本部総務課	文化交流室 A
H21/2/2	PC 講習会開会式	情報科学部	小ホール
H21/2/3	全学を対象にした講演会	教職員組合	小ホール
H21/2/4・5	医療分野ポルトガル語スペイン語講座・再試験実施	学務課	文化交流室 A・B
H20/2/9	打合せ会議	法人本部総務課	文化交流室 B
H21/2/10・11・12	入学手続き及び準備	学務課 入試広報室	講堂 ホワイエ 文化交流室 B
H21/2/10	入札会場	法人本部総務課	文化交流室 A
H21/2/13	契約職員採用試験第 2 次試験	法人本部総務課	文化交流室 A・B 多目的ホール
H21/2/23・24・25	平成 21 年度入学者選抜大学入学試験センター再試験及びその設営	学務課 入試広報室	多目的ホール 文化交流室 A・B
H21/2/24・25・26	平成 21 年度入学者選抜一般選抜試験	学務課 入試広報室	多目的ホール 文化交流室 A・B
H21/3/10	入学手続説明会	学務課 入試広報室	文化交流室 B
H21/3/19・20	平成 20 年度卒業式及び準備	学務課 学生支援グループ	講堂 控室 多目的ホール
知的財産・科研費による講演会等			
H20/5/18	講演会（科研費による講演会）	文学部 国文学科	小ホール 和室 文化交流室 A
H20/6/22	科研費による「いくさと芸能の会」	文学部 国文学科	講堂 学術文化交流センター 全館 多目

			的ホール 小 ホール 文化 交流室 A.B 和 室
H20/7/26	科学研究費補助金基盤研究 講演会	文学部 国文学科	小ホール 和室
H20/10/17	学内講演会 科学研究費補助金基盤研究 (S)「戦 (いくさ) に関する文字文化と人物の総合的研究」	外国語学科 スペイン学科	小ホール

月別利用状況(平成20年度)

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
講堂	公開講座													
	学術講演会				1				1					2
	学会								3					3
	学生利用						1	1	1					3
	授業													
	その他				1	5					1	3	2	12
	小計				2	5	1	1	5		1	3	2	20
小ホール	公開講座							1	1					2
	学術講演会													
	学会						1		1					2
	学生利用													
	授業										2	1		3
	その他		1	7	5	6	2	9	5	4	5	1	1	46
	小計		1	7	5	6	3	10	7	4	7	2	1	53
文化交流室 A	公開講座													
	学術講演会													
	学会					1	1		1					3
	学生利用						1							1
	授業							1						1
	その他	2		4	2	6		7	9	3	6	2		41
	小計	2		4	2	7	2	8	10	3	6	2		46
文化交流室 B	公開講座													
	学術講演会													
	学会					1			3					4
	学生利用					1		1	4					6
	授業											1		1
	その他			2	2	5	1	7	7	4	5	1	1	35
	小計			2	2	7	1	8	14	4	5	2	1	46
多目的ホール	公開講座				3			1	3	3				10
	学術講演会				1			1						2
	学会					1			1					2
	学生利用			1	1					2				4
	授業				2			1		1		4		8
	その他	1	3	2	3	5	3	6	2	5	18	20	11	79
	小計	1	3	3	10	6	3	9	6	11	18	24	11	105
和室	公開講座													
	学術講演会				1									1
	学会								2					2
	学生利用					1			4					5
	授業		1							1				2
	その他			2	1	5	1	2	1	1	2	1		16
	小計		1	2	2	6	1	2	7	2	2	1		26
合計	公開講座				3			2	4	3				12
	学術講演会				3			1	1					5
	学会					3	2		11					16
	学生利用			1	1	2	2	2	9	2				19
	授業		1		2			2		2	2	6		15
	その他	3	4	17	14	32	7	31	24	17	37	28	15	229
	小計	3	5	18	23	37	11	38	49	24	39	34	15	296

広報活動資料

地域連携センターで行った広報項目

1	公開講座・学術講演会
	チラシ・ポスター・リーフレットの作成、学内掲示、過去の受講者への郵送、大学ホームページで掲載、長久手町広報長久手に掲載、学びネットあいちに掲載
2	シンポジウム
	・小中学校・地域と大学との教育連携 チラシ・ポスターの作成、学内掲示、大学ホームページで掲載、長久手町広報長久手に掲載、学びネットあいちに掲載
3	セミナー・研究会
	・大学知的財産セミナー ・公共政策研究会 ・環境共生研究会 ・文理連携研究会 チラシの作成・関係機関への配布、学内掲示、大学ホームページで掲載
4	その他講演会等（中部の明日を考える連続講演会、あいち地域づくり実践講座等）
	学内掲示及び大学のホームページで掲載
5	地域連携センター紹介
	地域連携センター紹介リーフレットを作成し、大学訪問者に配布

学術講演会チラシ・ポスター



シンポジウム 小中学校・地域と大学との教育連携 ～スクールボランティアを通して～

愛知県内の大学で学ぶ学生たちは、近隣の市町村の小中学校のスクールボランティアとして、発達障害児への教育支援、外国籍児童生徒への学習支援、小学校英語支援に関わって活動しています。シンポジウムでは、小中学校・地域の特別な教育的ニーズを把握し、大学教育の課題を明らかにします。

日時	2008年10月30日(木) 13時30分～16時30分	募集人数 各分科会 50名程度
場所	愛知県立大学学術文化交流センター	

全体会 13時30分～14時25分	分科会 14時40分～16時30分
--------------------------	--------------------------

主催者挨拶 佐々木 雄太(愛知県立大学長)

基調発言1
田中 良三(愛知県立大学文学部児童教育学科教授)
「小中学校・地域と大学との教育連携
～スクールボランティアを通して～」

基調発言2
宇野 成佳(愛知県教育委員会特別支援教育課主査)
「愛知県における
スクールボランティアへのニーズと今後」

- ①発達障害児童への教育支援**
コーディネーター: 田中 良三(愛知県立大学文学部児童教育学科教授)
話題提供 : 山本 理絵(愛知県立大学文学部児童教育学科准教授)
藤井 安規(瀬戸市教育委員会指導主事)
石田 真利子(愛知県立大学生涯発達研究所共同研究員)
学生ボランティア
- ②外国籍児童・生徒への教育支援**
コーディネーター: 宮谷 敦美(愛知県立大学外国語学部日本語教員課程准教授)
話題提供 : 田中 敬一(愛知県立大学外国語学部スペイン学科教授)
東 弘子(愛知県立大学外国語学部日本語教員課程准教授)
加藤 正彦(瀬戸市立光陵中学校教頭)
蒔谷 光之(豊田市立西保見小学校教務主任)
学生ボランティア
- ③小学校英語活動支援**
コーディネーター: 池田 周(愛知県立大学文学部英文学科准教授)
話題提供 : 中村 要市(長久手町立南小学校校長)
保護者・地域ボランティア
愛知県立大学学生自主企画研究「小学生英語教育」グループ
学生ボランティア

【申込方法】 はがき又はEメールで、**シンポジウム名、分科会名、住所、氏名(ふりがな)**、電話番号を記入の上、お申込みください。

【申込期間】 10月1日(水)から10月24日(金)まで(必着)

【申込及び問い合わせ先】
〒480-1198
愛知県長久手大字熊張字茨ヶ廻間1522-3
愛知県立大学 事務局学務課 学務・連携グループ
電話 0561-64-1111(代表) FAX 0561-64-1105
Email:renkei2@bur.aichi-pu.ac.jp
(ただし全体会は申込み不要です)



交通アクセス

- 地下鉄「藤が丘」駅から八事行きリニモ(東部丘陵線)約13分
「愛・地球博記念公園」駅下車 北へ徒歩5分
- 愛知環状鉄道「八事」駅から藤が丘行きリニモ(東部丘陵線)約9分
「愛・地球博記念公園」駅下車 北へ徒歩5分



主催: 愛知県立大学地域連携センター、愛知県立大学生涯発達研究所
後援: 愛知県、愛知県教育委員会、瀬戸市教育委員会、豊田市教育委員会、長久手町教育委員会

研究会

- ・ 公共政策研究会

緊急ミニ・シンポジウム

**いま、在日ブラジル人、ペルー人に
何が起きているか**

～雇用・教育の危機とラテン・コミュニティの崩壊～

昨年秋以降の急激な経済悪化は、東海地方で暮らすブラジル人、ペルー人に深刻な事態を引き起こしています。この影響の深刻さを教育と雇用の現場で直接見ている3名の関係者を招き、現状報告と質疑を行います。

・報告者
松本雅美 学校法人ムンド・デ・アレグリア学校理事長・校長
原田篤実 株式会社リベルタ代表取締役
伊東浄江 NPO 法人トルシーダ代表

・コメントーター
松宮 朝(愛知県立大学社会福祉学科准教授)

報告者紹介
松本氏は浜松市中南米出身の子どもたちの学校を運営しているが、3ヶ月間で30人以上が退学したという。「暴動が起こるかもしれないと思った」と真顔で語る。
原田氏は外国人向け求人情報・生活情報誌発行人で、中南米出身労働者の生活事情に詳しい。ラテン・コミュニティ自体が崩壊しつつあり、これは異常な事態だと言う。
伊東氏は県大スペイン学科OG。豊田市保見団地でブラジル人の子どもたちを支援する。親の失業とともに、学校をやめ、先行きの見えない「待機児童」が増えたという。

日時： 平成21年2月20日(金)、10時半～
場所： 愛知県立大学E201教室(外国語学部棟2階)

主催 「多文化共生に資する特定領域スペイン語&ポルトガル語教育のための基礎研究II」
共同研究グループ(平成20年度教育・研究活性化推進事業 代表者 佐藤徳潤)

共催 愛知県立大学地域連携センター公共政策研究会
愛知県立大学多文化共生研究所
(問合せ先) スペイン学科 小池康弘(koike-ys@for.aichi-pu.ac.jp)

愛知県立大学

県立大学へはリニモで！エコマネーがもらえます。

さらに環境学習に参加してエコマネーをもらおう！！

研究会「環境との共生を考える」

愛知県立大学・環境フォーラム2008 「生物多様性及びCOP10開催にむけての実践と大学の役割」

日時 平成20年10月31日（金） 午後1時30分から午後4時まで

場所 愛知県立大学学術文化交流センター

主催 愛知県立大学地域連携センター・情報科学共同研究所・多文化共生研究所

概要 2010年に名古屋で開催されるCOP10に向けて、生物多様性とは何かを生物学の視点から概説すると共に、生物多様性と文化の関わりを文化人類学の視点から論じます。また、愛・地球博記念公園マネジメント会議に所属する2つのNPO団体のリーダーが、環境保全と環境教育に関する、これまでと今後の具体的な活動について報告します。

プログラム

研究発表

◆「海洋生物の多様性とその保全」

横田 幸雄（愛知県立大学情報科学部地域情報科学科教授）

◆「環境保全と環境教育に関する実践的活動のこれまでと今後」

篠田 陽作 氏（愛知県立大学非常勤講師・NPOネイチャークラブ東海理事長）

◆「子供たちと啓発活動 日本のどんぐりと沙漠のモンゴリ」

角和 保明 氏（NPOどんぐりモンゴリ理事長）

◆「アンデスにおける環境と文化、及び愛・地球博記念公園・公園マネジメント会議の活動」

稲村 哲也（愛知県立大学文学部日本文化学科教授）

■EXPOエコマネーについて

リニモ駅（藤が丘、愛・地球博記念公園、八草の3駅）に設置されたLini pon（読取機）に、愛・地球博入場券をタッチし、当日大学に出張している「エコマネーセンター」で認証を受けると、10ポイントもらえます。さらに、フォーラムの修了証を提示していただくと環境学習ポイントがもう1ポイントもらえます（入場券は当日会場でもらえます）。

■会場までのアクセス

○地下鉄「藤が丘」駅から八草行きリニモ（東部丘陵線）約13分

「愛・地球博記念公園」下車 北へ徒歩5分

○愛知環状鉄道「八草」駅から藤が丘行きリニモ（東部丘陵線）約3分

「愛・地球博記念公園」下車 北へ徒歩5分

問い合わせ先: 0561(64)1111

愛知県立大学

〒480-1198

愛知県長久手市大字熊張字茨ヶ廻間1522-3

Email renkei@bur.aichi-pu.ac.jp

申込み不要（無料）です。

会場までは、公共交通機関をご利用ください。



講演 「ICT を活用した英語教育 —Nintendo DS と e-Learning」

〈講師〉

大阪電気通信大学工学部英語教育研究センター
柏原 郁子 准教授

講演概要

英語教育に e-Learning を導入することによって、学生個人のニーズにあった学習環境を提供することが可能となる。教育効果をあげるには、e-Learning を講義とうまく関係させて、学生へコーチングを行うことが鍵といえるだろう。講演では、大阪電気通信大学での ICT (Information and Communication Technology) を活用した英語教育の具体的な事例を報告するとともに、Nintendo DS を用いた新しい英語教育の試みについて紹介する。

〈日時・場所等〉

〈日 時〉 平成21年1月28日(水) 15:00~17:00

〈場 所〉 愛知県立大学学術文化交流センター小ホール

〈主 催〉 地域連携センター文理連携研究会

高等言語教育研究所、情報科学共同研究所

〈対 象〉 教職員および学生

〈問合せ・申込先〉

愛知県立大学学務課

TEL: 0561-64-1111 〈内線〉 5163まで

Email: renkei@bur.aichi-pu.ac.jp

中部経済産業局主催「大学知財セミナー」

中部知的財産戦略本部事業

知的財産

研究成果を活きる財産に。

〔中部経済産業局主催〕 大学知財セミナー開催

第1回

11/11(火)

14:30～16:00

場 所／愛知県立大学
学術文化交流センター 文化交流室A

【講演テーマ】

知的財産制度の仕組みと 特許明細書の書き方

講 師／大学支援キャラバン隊員 弁理士 小林 かおる氏

14:30～14:35

挨拶 安川 博氏(愛知県立大学地域連携センター長)

14:35～16:00

講 演「知的財産制度の仕組みと特許明細書の書き方」
講 師／大学支援キャラバン隊員 弁理士 小林 かおる氏

◎主催／中部経済産業局

◎共催／愛知県立大学

お申し込み・お問い合わせ／愛知県立大学 事務局学務課 学務・連携グループ
TEL.0561-64-1111(代表) FAX.0561-64-1105

中部知的財産戦略本部事業

知的財産

研究成果を活きる財産に。

〔中部経済産業局主催〕 大学知財セミナー開催

第2回

12/5(金)

14:30～16:00

場 所／愛知県立大学
学術文化交流センター 文化交流室A

【テーマ】

名古屋市立大学の知財管理と 産学連携の実例紹介

講 師／名古屋市立大学 産学官・地域連携センター 顧問 知的財産アドバイザー 宇都宮 洋一氏
学術推進室（産学官・地域連携センター） 林 泰司氏

14:30～16:00

講演・フリーディスカッション（質疑応答）

名古屋市立大学の知財管理と産学連携について知的財産アドバイザーと事務局の2名から、
実例の紹介と参加者からの質問を踏まえフリーディスカッションを行います。

◎主催／中部経済産業局

◎共催／愛知県立大学

お申し込み・お問い合わせ／愛知県立大学 事務局学務課 学務・連携グループ
TEL.0561-64-1111(代表) FAX.0561-64-1105

あいち地域づくり実践講座

コミュニティやNPO、市町村職員など多様化する地域課題への対応に関わる人材の育成やネットワークづくりの促進を図るため、愛知県立大学と連携して基調講演会及びセミナーを開催します。

基調講演

講座の開講にあたり、地域コミュニティによる地域課題の解決の先進的な取組みなどについて紹介していただきます。

日時：2008年11月12日(水) 13:00～14:30

場所：愛知県立大学(学術文化交流センター多目的ホール)

愛知郡長久手町大字熊張字茨ヶ廻間 1522-3

講師：黒川 敬くろかわ たかし氏(NHK「難問解決ご近所の底力」チーフ・ディレクター)

演題：地域コミュニティの活性化に向けて～今こそ、ご近所の底力～

定員：200名

セミナー

【コース概要】

○テーマ別に3コースに分かれて開催します。

Aコース『地域福祉の実践』(定員50名程度)

(地域での認知症高齢者の見守りによる地域の安心の確保)

●コーディネーター：佐野 治准教授(愛知県立大学文学部社会福祉学科)

●事例報告：北名古屋市福祉部

Bコース『地域スポーツ・健康づくり』(定員50名程度)

(地域スポーツの振興や健康づくりの指導・普及活動の展開)

●コーディネーター：丸山 真司教授(愛知県立大学文学部児童教育学科)

(事例報告を兼ねる) 金尾 洋治教授(愛知県立看護大学)

Cコース『地域で展開する環境学習』(定員50名程度)

(身近な環境を生かした地域の環境学習活動の展開)

●コーディネーター：稲村 哲也教授(愛知県立大学文学部日本文化学科)

●事例報告：NPO法人どんぐりモンゴリ

NPO法人わくわく体験隊

ネイチャークラブ東海

○各コースとも3回の連続セミナーです。(コースによっては異なった進め方をする場合があります。)

第1回 テーマに関する問題の発見や整理

第2回 事例報告を参考にして、課題解決に向けた地域での取組みアイデアを整理

第3回 取組みアイデアを実践するための方法や体制についてのまとめ

【スケジュール等】

第1回 11月12日(水) 14:45～16:30(愛知県立大学学術文化交流センター内)

第2回 11月26日(水) 13:30～15:30(愛知県立大学学術文化交流センター内)

第3回 12月3日(水) 13:30～15:30(愛知県立大学学術文化交流センター内)

※参加費は無料。申込方法は裏面をご覧ください。

※お問合せ先

愛知県地域振興部地域政策課地域振興グループ TEL052-954-6096(FAX052-954-6906)

— 主催：愛知県、愛知県立大学 —

中部の明日を考える連続講演会（第1回）

中部の明日を考える連続講演会 第1回

「中部の明日を考える ～10年後の中部の姿～」

中部地域は、この数年、日本で一番元気な地域として注目を集めてきましたが、将来に向けた更なる発展のためには、グローバルな競争に勝ち抜く経済社会づくり、持続可能な環境調和型地域の形成など、様々な課題に対応していく必要があります。

そこで、中部国際空港二本目滑走路整備など今後のこの地域の在り様に重要な影響を与える様々な事柄に向けて、各界の最前線で活躍されている講師をお招きし、産・学・行政など地域づくりに関わるすべての方々を対象とした連続講演会を開催いたします。

第1回は、中部の明日を考える第一歩として、国土形成計画広域地方計画づくりを視野に入れ、みんなで明日の中部づくりを行う機運を盛り上げるため、以下のとおり講演会を開催いたしますので、御参加いただきますようお願い申し上げます。

■日時・場所等

- ◆日 時：平成20年10月8日（水） 午後2時から5時まで ◆参加費：無料
- ◆場 所：愛知県立大学 学術文化交流センター 講堂
（愛知県愛知郡長久手町大字熊張字茨ヶ廻間1522-3 裏面の地図参照）
- ◆主 催：愛知県、愛知県立大学
- ◆後 援：名古屋商工会議所、社団法人中部経済連合会、中部圏広域地方計画協議会

■プログラム

- ◆第1部 基調講演「世界から見た日本・中部」
講 師：財団法人日本総合研究所会長
株式会社三井物産戦略研究所所長 寺島 実郎 氏
- ◆第2部 パネルディスカッション 「みんなで考える中部の姿
～中部圏広域地方計画への提案～」
コーディネーター 中京大学総合政策学部長 奥野 信宏 氏
パネリスト 社団法人中部経済連合会副会長 神尾 隆 氏
三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)エコミスト 内田 俊宏 氏
環境カウンセラー 浅野 智恵美 氏



■お申し込み

- ◆お申し込み方法：
裏面の申込書にてFAXまたは郵送でお申し込みいただくか、必要事項を記入の上、E-mailでお申し込みください。 **申込期限：9月26日（金）**
- ◆事務局：愛知県地域振興部地域政策課 企画グループ（森田・水谷）
〔所在地〕〒460-8501 名古屋市中区三の丸3-1-2 (TEL 052-954-6093)

第2回以降の予定（開催日が近くなりましたら改めて参加募集等についてお知らせします。）

開催日	テーマ（仮題）	講 師	場 所
第2回 10月24日	国産旅客機MRJを世界の空へ	三菱航空機株代表取締役社長 戸田信雄氏	県立大学学術文化交流センター多目的ホール
第3回 10月29日	国際化の進展と地域づくり	(株)東芝顧問 有信睦弘氏（文部科学省中央教育審議会大学分科会留学生特別委員会委員）	県立大学学術文化交流センター多目的ホール
第4回 11月5日	技術力と持続可能型地域づくり	トヨタ自動車(株)取締役副社長 内山田竹志氏	名古屋ガーデンパレスホテル
第5回 11月7日	中部地域と広域観光	(社)日本観光協会中部支部長 須田 寛氏	名古屋ガーデンパレスホテル
第6回 11月25日	中部の空と明日	高千穂大学客員教授 山本雄二郎氏 (国土交通省交通政策審議会航空分科会委員)	県立大学学術文化交流センター多目的ホール

中部の明日を考える連続講演会（第2回）

参加無料

中部の明日を考える連続講演会 第2回

「国産旅客機MRJを世界の空へ」

中部地域は、この数年、日本で一番元気な地域として注目を集めてきましたが、将来に向けた更なる発展のためには、グローバルな競争に勝ち抜く経済社会づくり、持続可能な環境調和型地域の形成など、様々な課題に対応していく必要があります。

そこで、中部国際空港二本目滑走路整備など今後のこの地域の在り様に重要な影響を与える様々な事柄に向けて、各界の最前線で活躍されている講師をお招きし、産・学・行政など地域づくりに関わるすべての方を対象とした全6回の連続講演会を開催しております。

第2回はこれからの成長が見込まれる航空宇宙産業の中にあつて、三菱航空機が開発中の国産旅客機MRJを巡る状況等をテーマに開催いたしますので、ぜひとも御参加いただきますよう御案内申し上げます。

■日時・場所等

◆日 時：平成20年10月24日（金） 午後2時から4時まで

◆参加費：無料

◆場 所：愛知県立大学 学術文化交流センター 多目的ホール
（愛知県愛知郡長久手町大字熊張字茨ヶ廻間 1522-3 裏面の地図参照）

◆主 催：愛知県、愛知県立大学

◆後 援：名古屋商工会議所、社団法人中部経済連合会

■プログラム

◆テーマ：「国産旅客機MRJを世界の空へ」

航空宇宙産業は、その高付加価値性などから世界的にも今後の成長産業として注目されていますが、とくにここ中部地域では、これまでの航空宇宙産業の集積を活かした更なる展開が期待されています。また、本年3月には、約半世紀ぶりの国産旅客機としてMRJ（三菱リージョナルジェット）の事業化が決定され、我が国の航空プロジェクトが大きく花開こうとしています。

講演では、MRJ事業の最前線で指揮を取られている三菱航空機株式会社代表取締役社長戸田信雄氏から、MRJ事業の現状、地域へ与える影響、期待などをお話いただきます。

◆講師：三菱航空機株式会社代表取締役社長戸田信雄氏

東京大学工学部航空学科卒業

昭和44年 三菱重工業株式会社入社

平成14年 同社名古屋航空宇宙システム製作所長

平成17年 同社取締役、常務執行役員、航空宇宙事業本部長

平成20年 同社取締役、執行役員、MRJ事業統括

平成20年 三菱航空機株式会社代表取締役社長



■お申し込み

◆お申し込み方法：

裏面の申込書にてFAXまたは郵送でお申し込みいただくか、必要事項を記入の上、E-mailでお申し込みください。

申込期限：10月15日（水）

◆事務局：愛知県地域振興部地域政策課 企画グループ（森田・水谷）電話：052-954-6093

第3回以降の予定（第3回以降への参加希望、詳細の照会などがありましたら、上記事務局へお問い合わせください。）

開催日	テーマ（仮題）	講 師	場 所
第3回 10月29日	国際化の進展と地域づくり	㈱東芝顧問 有信睦弘氏（文部科学省中央教育審議会大学分科会留学生特別委員会委員）	県立大学学術文化交流センター多目的ホール
第4回 11月5日	技術力と持続可能型地域づくり	トヨタ自動車㈱取締役副社長 内山田竹志氏	名古屋ガーデンパレスホテル
第5回 11月7日	中部地域と広域観光	（社）日本観光協会中部支部長 須田 寛氏	名古屋ガーデンパレスホテル
第6回 11月25日	中部の空と明日	高千穂大学客員教授 山本雄二郎氏 （国土交通省交通政策審議会航空分科会委員）	県立大学学術文化交流センター多目的ホール

中部の明日を考える連続講演会（第3回）

参加無料	中部の明日を考える連続講演会 第3回	講師
	国際化の進展と地域づくり ～留学生30万人計画と中部の明日～	株式会社東芝 顧問 有信 睦弘氏

中部地域は、日本で一番元気な地域として注目を集めてきましたが、将来に向けたさらなる発展のためには、グローバルな競争に勝ち抜く経済社会づくり、持続可能な環境調和型地域の形成など、様々な課題に対応していく必要があります。そこで愛知県では、各界の最前線で活躍されている講師をお招きして、産・学・行政など地域づくりに関わるすべての方々を対象とした連続講演会を開催しております。

第3回は、国際化をテーマにした講演会を開催いたしますので、御参加いただきますよう御案内申し上げます。

- ◆日 時：平成20年10月29日(水) 午後2時から4時まで ◆参加費：無料
- ◆場 所：愛知県立大学 学術文化交流センター内 多目的ホール（裏面の地図をご覧ください）
- ◆主 催：愛知県、愛知県立大学
- ◆後 援：名古屋商工会議所、社団法人中部経済連合会、財団法人愛知県国際交流協会

◆テーマ：「国際化の進展と地域づくり～留学生30万人計画と中部の明日～」

政府はこの7月29日に、2020年を目途に留学生を30万人にするという「留学生30万人計画」の骨子を策定しました。これは単に大学だけではなく、地域を含めての受入態勢づくり、卒業後の企業等での就職など地域社会全体に大きな変革をもたらすものと考えられます。

講演では、中央教育審議会大学分科会留学生特別委員会の唯一の経済界出身委員としてこの計画策定に携われた有信睦弘氏から、その意義や影響、地域づくりへの期待などをお話しいただきます。

◆講師：株式会社東芝顧問 有信睦弘氏

東京大学大学院工業系研究科機械工学専攻博士課程終了、工学博士
1976年 東京芝浦電気(株)(現株東芝)入社
2003年 執行役常務(研究開発センター所長)
2006年 執行役常務(経営監査部長)
2008年 顧問
文部科学省中央教育審議会大学分科会留学生特別委員会委員、
文部科学省宇宙開発委員会特別委員、経済産業省産業構造審議会臨時委員など多数の公職を歴任



- ◆裏面申込書にてFAX・郵送でお申し込みいただくか、必要事項を記入の上、E-mailでお申し込みください。
- ◆なお定員(150名)になり次第、受付を締め切らせていただきます。申込期限:10月21日(火)
- ◆事務局：愛知県地域振興部地域政策課 企画グループ(森田・水谷) 電話：052-954-6093

※ 他の回の予定（他の回の参加希望も受け付けています。上記事務局へお問い合わせください。）

開催日時	テーマ	講師	場 所
第2回 10月24日14時～	国産旅客機MRJを 世界の空へ	三菱航空機(株)代表取締役社長 戸田信雄氏	県立大学学術文化交流センター 多目的ホール
第4回 11月5日14時～	生産のグローバル化と 中部のものづくり	トヨタ自動車(株)取締役副社長 内山田竹志氏	ホテル名古屋ガーデンパレス
第5回 11月7日16時～	中部地域と広域観光	(社)日本観光協会中部支部長 須田寛氏	ホテル名古屋ガーデンパレス
第6回 11月25日14時～	中部の空と明日	高千穂大学客員教授 山本雄二郎氏	県立大学学術文化交流センター 多目的ホール

中部の明日を考える連続講演会（第4回）

参加無料

中部の明日を考える連続講演会 第4回

「生産のグローバル化と中部のものづくり」

中部地域は、この数年、日本で一番元気な地域として注目を集めてきましたが、将来に向けた更なる発展のためには、グローバルな競争に勝ち抜く経済社会づくり、持続可能な環境調和型地域の形成など、様々な課題に対応していく必要があります。

そこで、中部国際空港二本目滑走路整備など今後のこの地域の在り様に重要な影響を与える様々な事柄に向けて、各界の最前線で活躍されている講師をお招きし、産・学・行政など地域づくりに関わるすべての方々を対象とした全6回の連続講演会を開催しております。

第4回は世界的な環境問題への関心の高まりなどを背景に、中部の誇るものづくり産業のこれからと、COP10開催を控えたこの地域の進むべき方向等をテーマに開催いたしますので、ぜひとも御参加いただきますようお願い申し上げます。

■日時・場所等

- ◆日 時：平成20年11月5日（水） 午後2時から4時まで ◆参加費：無料
- ◆場 所：ホテル名古屋ガーデンパレス 3階 栄の間
(名古屋市中区錦3-11-13 電話：052-957-1022 裏面の地図参照)
- ◆主 催：愛知県、愛知県立大学
- ◆後 援：名古屋商工会議所、社団法人中部経済連合会

■プログラム

◆テーマ：「生産のグローバル化と中部のものづくり」

ここ中部地域では、自動車産業を中心に世界に誇るものづくり産業が集積していますが、今後とも、持続可能な発展を続けるためには、地球温暖化をはじめとした環境問題への対応も欠くことが出来ません。

講演では、ものづくりの現場で、世界最高水準の技術開発に携わってこられたトヨタ自動車株式会社取締役副社長内山田竹志氏から、トヨタのものづくりの現状や環境問題等を背景として中部のものづくりの進むべき方向などをお話いただきます。

- ◆講師：トヨタ自動車株式会社取締役副社長 内山田竹志氏
名古屋大学工学部応用物理学卒業
昭和44年 トヨタ自動車工業(現トヨタ自動車)株式会社入社
平成14年 同社第1開発センターセンター長
平成15年 同社専務取締役、車両技術本部長
平成16年 同社生産管理・物流本部長
平成17年 同社取締役副社長



■お申し込み

- ◆お申し込み方法：
裏面の申込書にてFAXまたは郵送でお申し込みいただくか、必要事項を記入の上、E-mailでお申し込みください。 **申込期限：10月27日（月）**
- ◆事務局：愛知県地域振興部地域政策課 企画グループ（森田・水谷）電話：052-954-6093

その他の回の予定（第2回、第3回の参加希望も受け付けております。上記事務局へお問い合わせください。）

開催日	テーマ（仮題）	講 師	場 所
第2回 10月24日	国産旅客機MRJを世界の空へ	三菱航空機機代表取締役社長 戸田信雄氏	県立大学学術文化交流センター多目的ホール
第3回 10月29日	国際化の進展と地域づくり	㈱東芝顧問 有信睦弘氏（文部科学省中央教育審議会大学分科会留学生特別委員会委員）	県立大学学術文化交流センター多目的ホール
第5回 11月7日	中部地域と広域観光	(社)日本観光協会中部支部長 須田 寛氏	ホテル名古屋ガーデンパレス
第6回 11月25日	中部の空と明日	高千穂大学客員教授 山本雄二郎氏 (国土交通省交通政策審議会航空分科会委員)	県立大学学術文化交流センター多目的ホール

中部の明日を考える連続講演会（第5回）

参加無料

中部の明日を考える連続講演会 第5回

「中部地域と広域観光」

中部地域は、この数年、日本で一番元気な地域として注目を集めてきましたが、将来に向けた更なる発展のためには、グローバルな競争に勝ち抜く経済社会づくり、持続可能な環境調和型地域の形成など、様々な課題に対応していく必要があります。

そこで、中部国際空港二本目滑走路整備など今後のこの地域の在り様に重要な影響を与える様々な事柄に向けて、各界の最前線で活躍されている講師をお招きし、産・学・行政など地域づくりに関わるすべての方々を対象とした全6回の連続講演会を開催しております。

第5回は、賑わいあふれ活力ある中部圏を形成するためには、国内外との交流の拡大が不可欠であることから、中部地域と広域観光をテーマに開催いたしますので、ぜひとも御参加いただきますよう御案内申し上げます。

■日時・場所等

- ◆日 時：平成20年11月7日（金） 午後4時から5時30分まで ◆参加費：無料
- ◆場 所：ホテル名古屋ガーデンパレス 3階 栄の間
（名古屋市中区錦3-11-13 電話：052-957-1022 裏面の地図参照）
- ◆主 催：愛知県、愛知県立大学
- ◆後 援：名古屋商工会議所、社団法人中部経済連合会

■プログラム

◆テーマ：「中部地域と広域観光」

国土の中央に位置し、交通網の整備が進む中部地域では、文化、歴史、自然、産業等の地域資源を活かして、国内外との交流を拡大し、賑わいあふれ活力ある地域づくりを進めることが、今後一層求められています。

講演では、「新しい観光」、「新・観光資源論」などの著書も通じて、新たな視点から観光への提言をされている社団法人日本観光協会中部支部長の須田寛氏から、今後のこの地域の交流・広域観光などについてお話を伺います。

- ◆講師：社団法人日本観光協会中部支部長 須田寛氏
京都大学法学部卒業
昭和29年 日本国有鉄道 入社
昭和62年 東海旅客鉄道株式会社 代表取締役社長
平成7年 東海旅客鉄道株式会社 代表取締役会長
平成16年 東海旅客鉄道株式会社 相談役



■お申し込み

- ◆お申し込み方法：裏面の申込書にてFAXまたは郵送でお申し込みいただくか、必要事項を記入の上、E-mailでお申し込みください。

申込期限：10月27日（月）

- ◆事務局：愛知県地域振興部地域政策課 企画グループ（森田・水谷）電話：052-954-6093

◆その他の回の予定（他の回への参加希望も受け付けております。上記事務局へお問い合わせください。）

開催日	テーマ（仮題）	講 師	場 所
第2回 10月24日	国産旅客機MRJを世界の空へ	三菱航空機株式会社代表取締役社長 戸田信雄氏	県立大学学術文化交流センター多目的ホール
第3回 10月29日	国際化の進展と地域づくり	㈱東芝顧問 有信睦弘氏（文部科学省中央教育審議会大学分科会留学生特別委員会委員）	県立大学学術文化交流センター多目的ホール
第4回 11月5日	生産のグローバル化と中部のものづくり	トヨタ自動車㈱取締役副社長 内山田竹志氏	ホテル名古屋ガーデンパレス
第6回 11月25日	中部の空と明日	高千穂大学客員教授 山本雄二郎氏 （国土交通省交通政策審議会航空分科会委員）	県立大学学術文化交流センター多目的ホール

中部の明日を考える連続講演会（第6回）

参加無料

中部の明日を考える連続講演会 第6回

「中部の空と明日」

中部地域は、この数年、日本で一番元気な地域として注目を集めてきましたが、将来に向けた更なる発展のためには、グローバルな競争に勝ち抜く経済社会づくり、持続可能な環境調和型地域の形成など、様々な課題に対応していく必要があります。

そこで、中部国際空港二本目滑走路整備など今後のこの地域の在り様に重要な影響を与える様々な事柄に向けて、各界の最前線で活躍されている講師をお招きし、産・学・行政など地域づくりに関わるすべての方々を対象とした全6回の連続講演会を開催しております。

連続講演会最終回である第6回は、私たちの中部と世界を結ぶ手段である航空の状況とこれからの展望をテーマに開催いたしますので、ぜひとも御参加いただきますよう御案内申し上げます。

■日時・場所等

◆日 時：平成20年11月25日（火） 午後2時から4時まで

◆参加費：無料

◆場 所：愛知県立大学 学術文化交流センター 多目的ホール
（愛知県愛知郡長久手町大字熊張字茨ヶ廻間 1522-3 裏面の地図参照）

◆主 催：愛知県、愛知県立大学

◆後 援：名古屋商工会議所、社団法人中部経済連合会

■プログラム

◆テーマ：「中部の空と明日」

社会経済のグローバル化が進展する中で、人やモノの「交流」がキーワードとなっています。交流のための有力なツールである航空について知ることは、これからのこの地域の在り様を模索するうえで欠くことが出来ません。講演では、長年にわたって、日本の航空政策の形成にかかわってこられた高千穂大学客員教授の山本雄二郎様から、これからの中部地域発展の鍵となる航空の状況と中部の明日についてお話いただきます。

◆講師：高千穂大学客員教授、成田空港地域共生委員会代表委員 山本雄二郎氏
早稲田大学第一法学部卒業

昭和29年 産経新聞東京本社入社、政治部記者、論説委員（交通担当）、
論説副委員長を歴任

昭和61年 高千穂商科大学商学部教授に就任

平成13年 高千穂大学客員教授に就任、今日に至る。

昭和45年から運輸政策審議会、航空審議会、観光政策審議会など国の
審議会の各委員、中部国際空港株監査役（非常勤）を歴任。平成20年からは、
交通政策審議会航空分科会委員、航空インフラ規制研究会委員。



■お申し込み

◆お申し込み方法：

裏面の申込書にてFAXまたは郵送でお申し込みいただくか、必要事項を記入の上、E-mailでお申し込みください。

申込期限：11月17日（月）

◆事務局：愛知県地域振興部地域政策課 企画グループ（森田・水谷）電話：052-954-6093

他の回の予定（他の回への参加希望、詳細の照会などがありましたら、上記事務局へお問い合わせください。）

開催日	テーマ（仮題）	講 師	場 所
第4回 11月5日	生産のグローバル化と 中部のものづくり	トヨタ自動車株取締役副社長 内山田竹志氏	名古屋ガーデンパレス ホテル
第5回 11月7日	中部地域と広域観光	（社）日本観光協会中部支部長 須田 寛氏	名古屋ガーデンパレス ホテル

発行日	平成21年3月31日
発行者	愛知県立大学 地域連携センター 愛知県愛知郡長久手町大字熊張字茨ヶ廻間1522番3 電話：0561-64-1111 http://www.bur.aichi-pu.ac.jp/renkei/
作成担当	安川 博、小池 康弘、松宮 朝、 安藤 章二、林 英文
印刷	株式会社 シイエム・シイ 名古屋市中区平和1-1-19